

平成30年
埼玉県の人口動態概況
(確定数)

令和2年3月

埼玉県保健医療部保健医療政策課

目 次

1	人口動態の概況（平成30年1月～12月）	1
2	各 論	2
(1)	出 生	2
(2)	死 亡	10
(3)	乳児死亡及び新生児死亡	26
(4)	自然増減	27
(5)	死 産	30
(6)	周産期死亡	31
(7)	婚 姻	32
(8)	離 婚	34
(9)	合計特殊出生率	35

巻末（統計資料）

第1表	人口動態の年次推移－埼玉県－	40
第2表	〃 ー全 国ー	42
第3表	人口動態総覧（対前年比較）－埼玉県－	44
第4表	〃 ー全 国ー	45
第5表	死因順位（1～10位）別死亡数・死亡率（人口10万対）の対前年比較	46
第6表	死因簡単分類別死亡数・死亡率（人口10万対）の対前年比較	47
第7表	死亡数，性・年齢（5歳階級）・死因（死因簡単分類）別	51
第8表	人口動態総覧（保健所・市区町村・二次保健医療圏別）	62
第9表	〃 （都道府県別）	66

埼玉県の人口動態概況（確定数）について

これは、厚生労働省が平成 30 年 1 月から平成 30 年 12 月までの人口動態調査票を集計したものを年計として公表するものです。

【利用上の注意】過去の数値に関する修正について

厚生労働省では、平成 16・18・21～29 年の数値について再集計を実施し、修正した過去数値を順次公表することとしています。

これまでに、人口動態統計（確定数）の平成 30 年概況及び e-Stat 掲載の 2018 年（上巻）の年次推移の統計表で過去数値の修正が反映、公表されました。これを踏まえ、「平成 30 年埼玉県の人口動態概況（確定数）」においても、過去数値の修正を行いました。各表における下線は修正後の数値です。

このほかの過去数値についても、今後、厚生労働省による修正の公表を受け、埼玉県版の数値を修正する可能性があります。

統計表の表章記号の規約

—	計数のない場合
…	計数不明の場合又は計数を表章することが不適当な場合
・	統計項目のあり得ない場合
0.0	数値の微少（0.05 未満）の場合
△	減を表す場合

注：掲載の数値は四捨五入してあるので、内訳の合計が「総数」に合わない場合があります。

○ 厚生労働省ホームページにおいて、人口動態統計の調査結果を閲覧できます。

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1.html>

<二次保健医療圏及び保健所>

この概況では以下の二次保健医療圏及び保健所で集計した。

※圏域内保健所は平成30年度時点の状況

二次保健医療圏		圏域内保健所	圏域内市町村
南部保健医療圏		川口市保健所	川口市
		南部保健所	蕨市・戸田市
南西部保健医療圏		朝霞保健所	朝霞市・志木市・和光市・新座市・富士見市・ふじみ野市・三芳町
東部保健医療圏			下記市町
副次圏	東部（北）保健医療圏	春日部保健所	春日部市・松伏町
		越谷市保健所	越谷市
	東部（南）保健医療圏	草加保健所	草加市・八潮市・三郷市・吉川市
さいたま保健医療圏		さいたま市保健所	さいたま市
県央保健医療圏		鴻巣保健所	鴻巣市・上尾市・桶川市・北本市・伊奈町
川越比企保健医療圏			下記市町村
副次圏	川越比企（北）保健医療圏	東松山保健所	東松山市・滑川町・嵐山町・小川町・川島町・吉見町・ときがわ町・東秩父村
		坂戸保健所	坂戸市・鶴ヶ島市・毛呂山町・越生町・鳩山町
	川越比企（南）保健医療圏	川越市保健所	川越市
西部保健医療圏		狭山保健所	所沢市・飯能市・狭山市・入間市・日高市
利根保健医療圏			下記市町
副次圏	利根（北）保健医療圏	加須保健所	行田市・加須市・羽生市
	利根（南）保健医療圏	幸手保健所	久喜市・蓮田市・幸手市・白岡市・宮代町・杉戸町
北部保健医療圏			下記市町
副次圏	北部（東）保健医療圏	熊谷保健所	熊谷市・深谷市・寄居町
	北部（西）保健医療圏	本庄保健所	本庄市・美里町・神川町・上里町
秩父保健医療圏		秩父保健所	秩父市・横瀬町・皆野町・長瀬町・小鹿野町

<用語の解説>

- 1 出 産
出生に死産を加えたものをいう。
- 2 自然増減
出生数から死亡数を減じたものをいう。
- 3 乳児死亡
生後1年未満の死亡をいう。
- 4 新生児死亡
生後4週未満の死亡をいう。
- 5 早期新生児死亡
生後1週未満の死亡をいう。
- 6 死 産
妊娠満12週（妊娠第4月）以後における死児の出産をいい、死児とは、出産後において心臓搏動、随意筋の運動及び呼吸のいずれも認めないものをいう。
- 7 周産期死亡
妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたものをいう。
- 8 妊産婦死亡
妊娠中又は妊娠終了後満42日未満（昭和53年までは「産後90日以内」、昭和54年から平成6年までは「分娩後42日以内」としている）の女性の死亡で、妊娠の期間及び部位には関係しないが、妊娠もしくはその管理に関連した又はそれらによって悪化したすべての原因によるものをいう。ただし、不慮又は偶発の原因によるものを除く。
- 9 合計特殊出生率
15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した数値である。
1人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。
なお、算出に用いた15歳及び49歳の出生数にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

<比率の解説>

出生率・死亡率・婚姻率・離婚率	=	$\frac{1 \text{ 年間の事件数}}{10 \text{ 月 1 日の人口}}$	× 1,000
自然増減率	=	$\frac{1 \text{ 年間の自然増減数 (出生数 - 死亡数)}}{10 \text{ 月 1 日の人口}}$	× 1,000
乳児死亡率	=	$\frac{1 \text{ 年間の乳児 (出生 1 年未満) 死亡数}}{1 \text{ 年間の出生数}}$	× 1,000
新生児死亡率	=	$\frac{1 \text{ 年間の新生児 (生後 4 週未満) 死亡数}}{1 \text{ 年間の出生数}}$	× 1,000
死産率 (総数・自然・人工)	=	$\frac{1 \text{ 年間の死産数}}{1 \text{ 年間の出産数 (出生 + 死産)}}$	× 1,000
周産期死亡率	=	$\frac{\text{妊娠満 22 週以後の死産数} + \text{早期新生児 (生後 1 週未満) 死亡数}}{1 \text{ 年間の出産数 (出生 + 妊娠満 22 週以後の死産数)}}$	× 1,000
妊娠満 22 週以後の死産率 (後期死産率)	=	$\frac{1 \text{ 年間の妊娠満 22 週以後の死産数}}{1 \text{ 年間の出産数 (出生 + 妊娠満 22 週以後の死産数)}}$	× 1,000
早期新生児死亡率	=	$\frac{1 \text{ 年間の早期新生児 (生後 1 週未満) 死亡数}}{1 \text{ 年間の出生数}}$	× 1,000
死因別死亡率	=	$\frac{1 \text{ 年間の死因別死亡数}}{10 \text{ 月 1 日の人口}}$	× 100,000
合計特殊出生率	=	$\left(\frac{1 \text{ 年間の母の年齢別出生数}}{10 \text{ 月 1 日の年齢別女性人口 (注)}} \right) \times 15 \text{ 歳から 49 歳までの合計}$ (5 歳階級で算出する時は 5 倍する)	

<比率算出に用いた人口>

	人口	備考
・全国 ・埼玉県	総務省統計局「人口推計 (平成 30 年 10 月 1 日現在)」の日本人人口	
・さいたま市保健所 ・さいたま市	厚生労働省「平成 30 年 (2018) 人口動態統計 (確定数) の概況」の諸率の算出に用いた人口のうち、特別区 - 指定都市人口 (総人口)	(注) 左記の人口には年齢別のデータがないため、合計特殊出生率算出には、以下を用いた。
・市区町村 (さいたま市を除く)	県総務部統計課「埼玉県推計人口 (平成 30 年 10 月 1 日現在)」(人口総数)	県総務部統計課「埼玉県町 (丁) 字別人口調査 (平成 30 年 1 月 1 日現在)」による人口 (人口総数)

1 人口動態の概況（平成30年1月～12月）

(1) 出生数 [減少]

出生数は51,241人で、前年と比べ1,835人減少し、出生率は人口千人に対し7.1で、前年と比べ0.3ポイント低下した。

(2) 死亡数 [増加]

死亡数は67,726人で、前年と比べ1,956人増加し、死亡率は人口千人に対し9.4で、前年と比べ0.2ポイント上昇した。

(3) 乳児死亡数 [減少]

乳児死亡数は89人で、前年と比べ5人減少し、乳児死亡率は出生千人に対し1.7で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

(4) 自然増減数 [減少]

自然増減数は△16,485人で、前年と比べ3,791人減少し、自然増減率は人口千人に対し△2.3で、前年と比べ0.5ポイント低下した。

(5) 死産数 [減少]

死産数は1,130胎で、前年と比べ83胎減少し、死産率は出産（出生＋死産）千人（胎）に対し21.6で、前年と比べ0.7ポイント低下した。

(6) 周産期死亡数 [減少]

周産期死亡数は160人（胎）で、前年と比べ18人（胎）減少し、周産期死亡率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千人（胎）に対し3.1で、前年と比べ0.2ポイント低下した。

(7) 婚姻件数 [減少]

婚姻件数は32,745組で、前年と比べ997組減少し、婚姻率は人口千人に対し4.6で、前年と比べ0.1ポイント低下した。

(8) 離婚件数 [減少]

離婚件数は11,716組で、前年と比べ446組減少し、離婚率は人口千人に対し1.63で、前年と比べ0.07ポイント低下した。

(9) 合計特殊出生率 [低下]

合計特殊出生率は1.34で、前年と比べ0.02ポイント低下した。

表－1 人口動態の概況（対前年比較）

	実数 (人、胎、組)			率 ^{注2}			平均発生間隔					
	平成30年	平成29年	対前年増減	平成30年	平成29年	対前年増減	平成30年		平成29年			
							時	分	秒	時	分	秒
出生	51 241	<u>53 076</u>	△ 1 835	7.1	7.4	△ 0.3	10	15		9	54	
死亡	67 726	<u>65 770</u>	1 956	9.4	9.2	0.2	7	46		8	0	
乳児死亡	89	94	△ 5	1.7	1.8	△ 0.1	98	25	37	93	11	29
新生児死亡	41	36	5	0.8	0.7	0.1	213	39	31	243	20	0
自然増減	△ 16 485	<u>△ 12 694</u>	△ 3 791	△ 2.3	△ 1.8	△ 0.5	…			…		
死産	1 130	1 213	△ 83	21.6	22.3	△ 0.7	7	45	8	7	13	18
自然死産	521	598	△ 77	9.9	11.0	△ 1.1	16	48	50	14	38	56
人工死産	609	615	△ 6	11.6	11.3	0.3	14	23	3	14	14	38
周産期死亡	160	178	△ 18	3.1	3.3	△ 0.2	54	45	0	49	12	49
妊娠満22週以後の死産	133	154	△ 21	2.6	2.9	△ 0.3	65	51	53	56	52	59
早期新生児死亡	27	24	3	0.5	0.5	-	324	26	40	365	0	0
婚姻	32 745	<u>33 742</u>	△ 997	4.6	4.7	△ 0.1	16	3		15	35	
離婚	11 716	<u>12 162</u>	△ 446	1.63	1.70	△ 0.07	44	52		43	13	

	平成30年	平成29年	対前年増減
合計特殊出生率	1.34	1.36	△ 0.02

注1: 厚生労働省が再集計を行い、過去数値を修正、公表したことを受け、平成29年の数値を修正した。(下線部分)

注2: 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は人口千対、乳児死亡・新生児死亡・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生＋妊娠満22週以後の死産）千対の率である。

2 各 論

(1) 出 生

ア 出生数及び出生率

平成30年の出生数は51,241人で、前年の53,076人より1,835人減少した。

出生数を年次推移で見ると、昭和48年の106,008人をピークに平成2年まで減少し続け、その後増加と減少を繰り返しながら長期的には減少傾向が続いている。

出生率は人口千人に対し7.1で、前年より0.3ポイント低下した。全国も前年より0.2ポイント低下し、7.4であった。（表-2）

出生率を年次推移で見ると、第2次ベビーブームの昭和46年の24.0以降低下を続け、平成2年に初めて10.0を割り9.9となった。その後平成8年まで10.0を上回る程度で推移していたが、平成9年に再び10.0を割って以降、平成26年以降は8.0を割るなど、低下傾向である。

出生率を全国と比較すると、本県の出生率は平成3年以降、わずかながら全国を上回る状態であった。しかし、平成20年以降は、同率だった平成21年を除き、全国を下回っている。（図-1）

なお、昭和41年にみられる出生率の低下は、丙午（ひのえうま）によるものである。

表-2 出生数及び出生率の年次推移

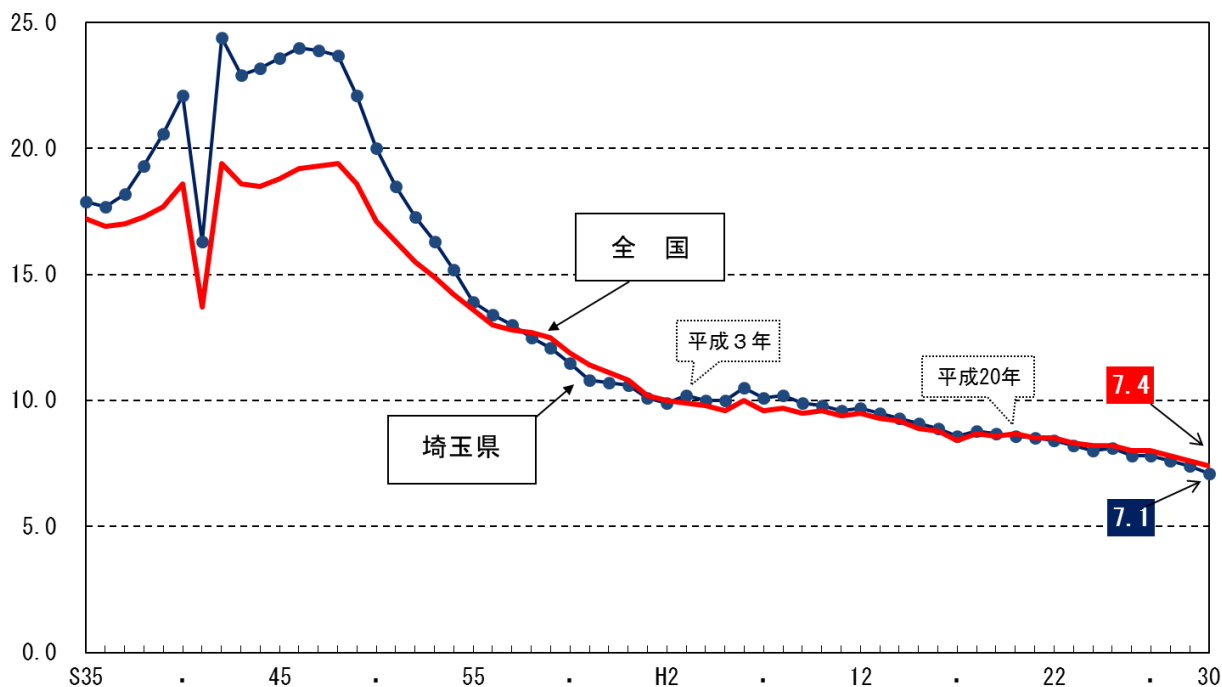
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	
数	埼玉県	43 421	66 585	91 113	96 033	75 090	67 260	63 299	67 750
	全 国	1 606 041	1 823 697	1 934 239	1 901 440	1 576 889	1 431 577	1 221 585	1 187 064
率	埼玉県	17.9	22.1	23.6	20.0	13.9	11.5	9.9	10.1
	全 国	17.2	18.6	18.8	17.1	13.6	11.9	10.0	9.6

	12	17	22	26	27	28	29	30	
数	埼玉県	66 376	59 731	59 437	55 765	56 078	54 452	53 076	51 241
	全 国	1 190 547	1 062 530	1 071 305	1 003 609	1 005 721	977 242	946 146	918 400
率	埼玉県	9.7	8.6	8.4	7.8	7.8	7.6	7.4	7.1
	全 国	9.5	8.4	8.5	8.0	8.0	7.8	7.6	7.4

注：率は人口千対である。

図-1 出生率の年次推移（埼玉県・全国）

出生率（人口千対）



イ 都道府県別にみた出生率

都道府県別にみると、本県は、昭和49年から昭和52年までは、高率順で沖縄県に次いで第2位であった。しかし、昭和53年以降順位を落とし昭和61年には41位まで下がった。その後、平成7年には4位となったものの、平成25年から平成28年は23位、平成29年は22位、平成30年は23位と、近年、横ばいの状況が続いている。（表－3）

表－3 都道府県別にみた出生率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	11.9		全 国	10.0		全 国	9.6		全 国	9.5		全 国	8.4	
	沖 縄	17.6	1	沖 縄	14.0	1	沖 縄	13.2	1	沖 縄	12.8	1	沖 縄	11.9	1
	福 島	13.3	2	滋 賀	11.2	2	愛 知	10.6	2	愛 知	10.8	2	滋 賀	9.5	2
	佐 賀	13.1	3	佐 賀	10.9	3	滋 賀	10.5	3	滋 賀	10.6	3	愛 知	9.4	3
	宮 城	12.9	4	福 島	10.8	4	埼 玉	10.1	4	大 阪	10.2	4	福 井	8.8	4
	宮 崎	12.9	5	愛 知	10.7	5	山 梨	10.1	5	佐 賀	10.0	5	大 阪	8.8	5
	鹿 児 島	12.7	6	長 崎	10.6	6	福 井	10.1	6	兵 庫	10.0	6	神 奈 川	8.8	6
	滋 賀	12.7	7	福 井	10.6	7	福 島	10.0	7	神 奈 川	9.9	7	栃 木	8.7	7
	長 崎	12.7	8	鹿 児 島	10.5	8	大 阪	10.0	8	岡 山	9.8	8	佐 賀	8.7	8
	栃 木	12.7	9	鳥 取	10.4	9	宮 崎	10.0	9	福 井	9.8	9	広 島	8.7	9
熊 本	12.6	10	宮 城	10.4	10	神 奈 川	9.9	10	福 石	9.8	10	福 岡	8.7	10	
	埼 玉	11.5	34	埼 玉	9.9	29				埼 玉	9.7	15	埼 玉	8.6	18
低率順	富 山	10.7	1	高 知	8.7	1	秋 田	8.2	1	秋 田	7.6	1	秋 田	6.7	1
	東 京	10.7	2	山 口	8.8	2	東 京	8.4	2	北 海 道	8.2	2	徳 島	7.3	2
	秋 田	10.9	3	東 京	8.9	3	高 知	8.5	3	高 知	8.4	3	青 森	7.3	3
	高 知	11.1	4	秋 田	9.0	4	山 口	8.6	4	東 京	8.5	4	北 海 道	7.4	4
	京 都	11.1	5	富 山	9.0	5	島 根	8.8	5	島 根	8.6	5	高 知	7.5	5
高率順	全 国	8.5		全 国	8.0		全 国	7.8		全 国	7.6		全 国	7.4	
	沖 縄	12.3	1	沖 縄	11.9	1	沖 縄	11.6	1	沖 縄	11.3	1	沖 縄	11.0	1
	愛 知	9.6	2	滋 賀	9.1	2	愛 知	8.8	2	福 岡	8.6	2	愛 知	8.4	2
	滋 賀	9.6	3	愛 知	9.0	3	福 岡	8.7	3	愛 知	8.5	3	福 岡	8.3	3
	福 岡	9.3	4	福 岡	9.0	4	滋 賀	8.7	4	熊 本	8.4	4	熊 本	8.2	4
	広 島	9.0	5	熊 本	8.8	5	東 京	8.5	5	滋 賀	8.3	5	滋 賀	8.2	5
	宮 崎	9.0	6	東 京	8.6	6	熊 本	8.4	6	佐 賀	8.2	6	鹿 児 島	8.1	6
	佐 賀	9.0	7	鹿 児 島	8.6	7	鹿 児 島	8.4	7	東 京	8.2	7	佐 賀	8.0	7
	熊 本	9.0	8	佐 賀	8.5	8	佐 賀	8.3	8	鹿 児 島	8.2	8	東 京	8.0	8
	鹿 児 島	8.9	9	広 島	8.4	9	宮 崎	8.2	9	宮 崎	8.1	9	東 宮 崎	7.9	9
神 奈 川	8.8	10	宮 崎	8.4	10	岡 山	8.2	10	広 島	7.9	10	岡 山	7.7	10	
	埼 玉	8.4	22	埼 玉	7.8	23	埼 玉	7.6	23	埼 玉	7.4	22	埼 玉	7.1	23
低率順	秋 田	6.2	1	秋 田	5.7	1	秋 田	5.6	1	秋 田	5.4	1	秋 田	5.2	1
	青 森	7.1	2	青 森	6.6	2	北 海 道	6.6	2	青 森	6.3	2	岩 手	6.2	2
	高 知	7.2	3	北 海 道	6.8	3	岩 手	6.6	3	北 海 道	6.4	3	青 森	6.2	3
	北 海 道	7.3	4	岩 手	6.9	4	高 知	6.7	4	岩 手	6.5	4	北 海 道	6.2	4
	岩 手	7.4	5	高 知	7.0	5	青 森	6.7	5	山 形	6.6	5	山 形	6.4	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

ウ 市町村別にみた出生率

市町村別にみると、高率順では、朝霞市（9.5）、和光市（9.5）、滑川町（9.4）、戸田市（9.4）の順である。

また、低率順では、鳩山町（2.6）、東秩父村（3.0）、ときがわ町（3.1）の順である。（表－4、図－2）

表－4 市町村別にみた出生率（高率順）

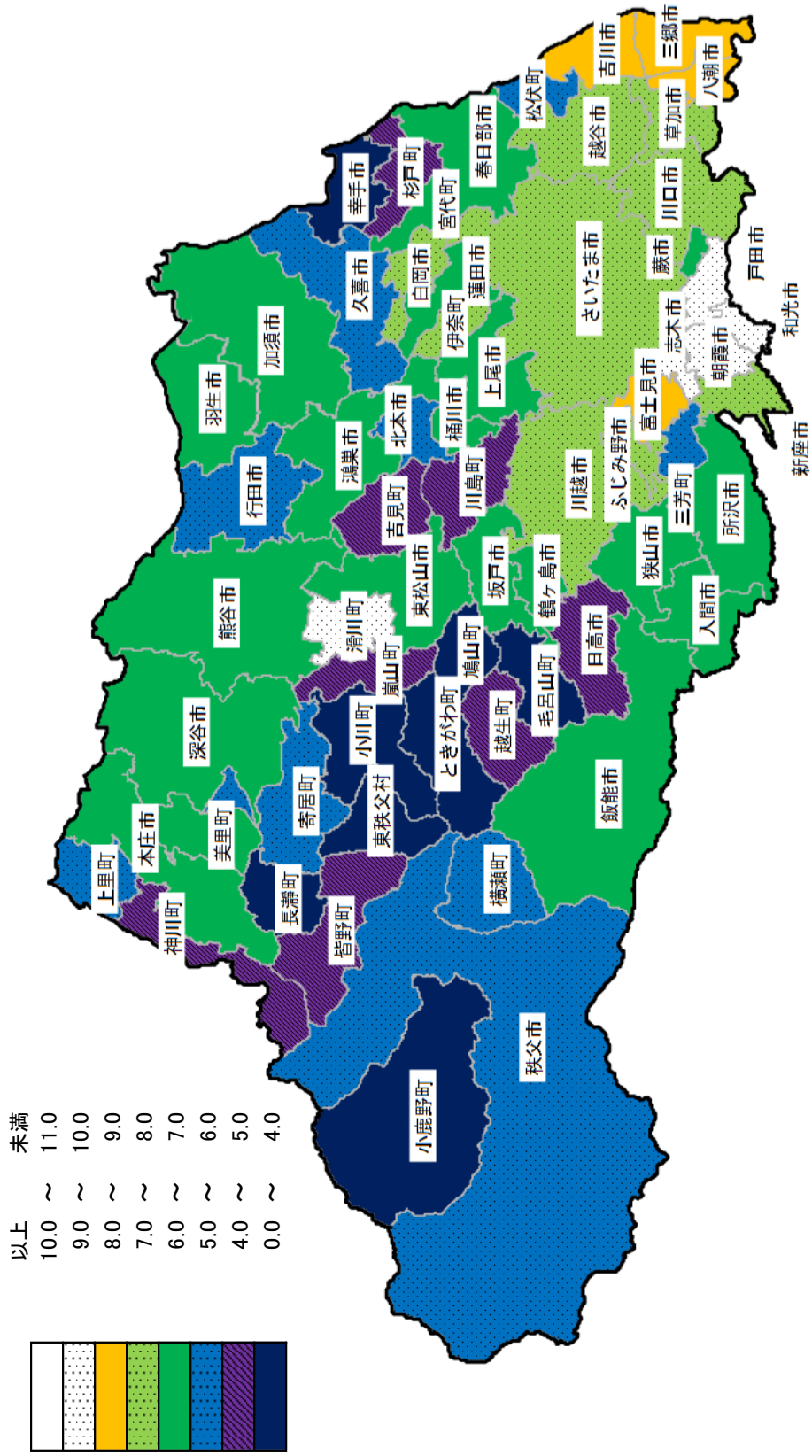
埼玉県								
順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率	順位	市町村	出生率
1	朝霞市	9.5	22	東松山市	6.7	43	横瀬町	5.6
2	和光市	9.5	23	深谷市	6.6	44	行田市	5.5
3	滑川町	9.4	24	上尾市	6.5	45	寄居町	5.3
4	戸田市	9.4	25	宮代町	6.4	46	北本市	5.2
5	志木市	9.0	26	羽生市	6.4	47	松伏町	5.0
6	八潮市	8.7	27	熊谷市	6.3	48	杉戸町	4.9
7	吉川市	8.6	28	蕨市	6.2	49	皆野町	4.9
8	三郷市	8.1	29	鶴ヶ島市	6.2	50	川島町	4.8
9	富士見市	8.0	30	桶川市	6.1	51	日高市	4.7
10	さいたま市	7.9	31	蓮田市	6.1	52	神川町	4.6
11	伊奈町	7.9	32	入間市	6.0	53	嵐山町	4.6
12	白岡市	7.8	33	加須市	6.0	54	越生町	4.2
13	越谷市	7.6	34	狭山市	6.0	55	吉見町	4.0
14	川口市	7.5	35	鴻巣市	6.0	56	幸手市	3.8
15	ふじみ野市	7.4	36	春日部市	6.0	57	長瀬町	3.6
16	新座市	7.4	37	飯能市	6.0	58	毛呂山町	3.4
17	川越市	7.0	38	坂戸市	6.0	59	小川町	3.3
18	草加市	7.0	39	秩父市	5.9	60	小鹿野町	3.3
19	本庄市	6.8	40	上里町	5.8	61	ときがわ町	3.1
20	所沢市	6.7	41	三芳町	5.8	62	東秩父村	3.0
21	美里町	6.7	42	久喜市	5.7	63	鳩山町	2.6

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図一2 出生率(人口千対)一市町村別状況一

全 国 : 7.4
 埼 玉 県 : 7.1



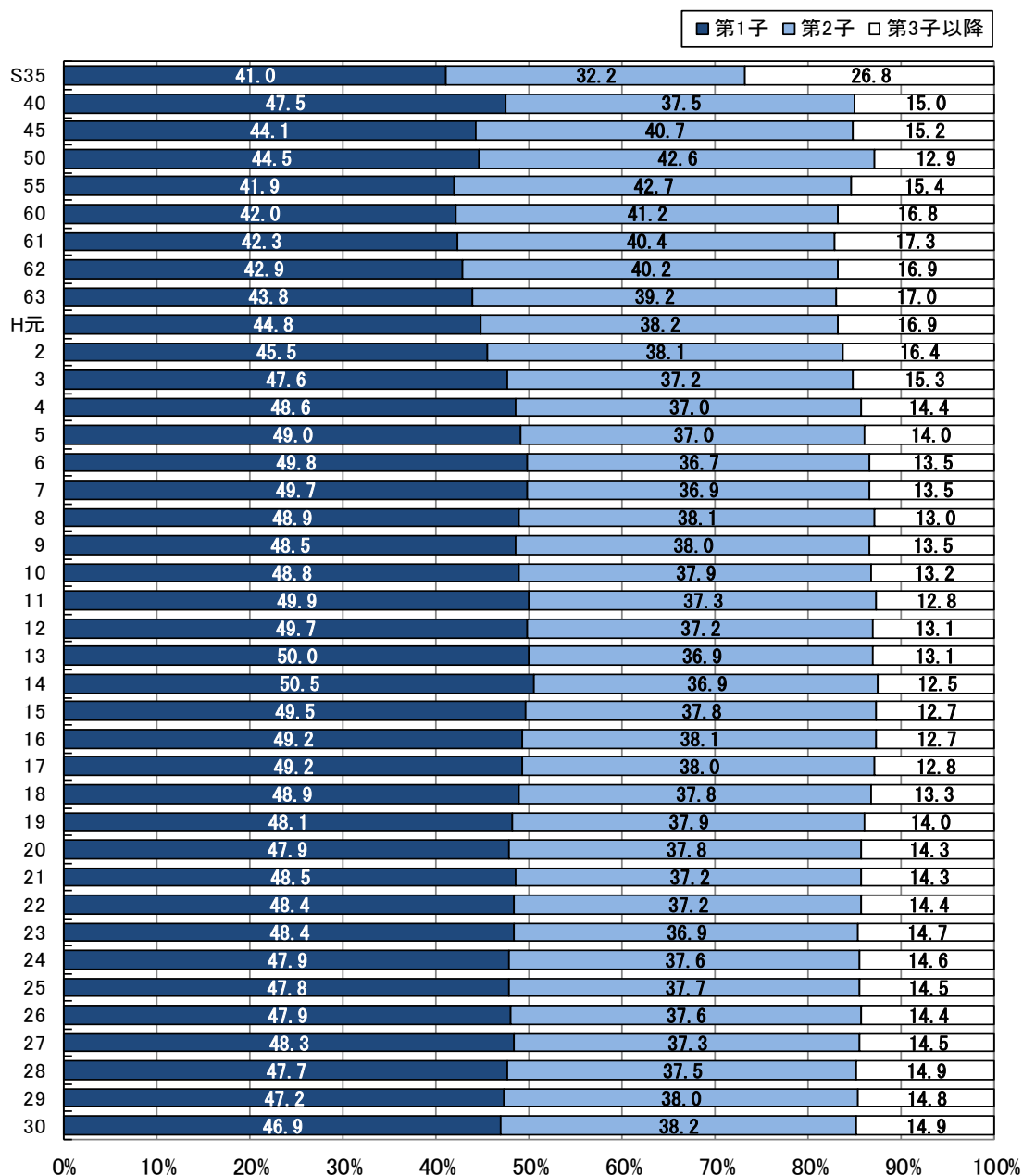
エ 出生順位別にみた出生の動向

出生順位別に出生数の構成割合の年次推移をみると、第1子の割合は昭和60年（42.0%）から平成6年（49.8%）まで増加を続けていた。平成7年以降は増減を繰り返し、近年は47~48%で推移していたが、平成30年は46.9%で、前年の47.2%を0.3ポイント下回った。

また、第2子の割合は昭和55年（42.7%）をピークに、その後増減を繰り返している。平成30年は38.2%と前年を0.2ポイント上回った。

第3子以降の割合は、昭和35年には26.8%と全体の3割近くを占めていたものの、平成19年以降は14%台となっている。平成30年は前年を0.1ポイント上回り14.9%であった。（図-3、表-5）

図-3 出生順位別にみた出生割合の年次推移（埼玉県）



注：昭和40年以前の第3子以降には、出生順位不詳を含む。

表一 5 出生順位別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出 生 数						構 成 割 合					
	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降	総 数	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子 以 降
S 35	43 421	17 794	13 987	6 817	2 669	2 154	100.0	41.0	32.2	15.7	6.1	5.0
40	66 585	31 602	24 975	7 438	1 699	871	100.0	47.5	37.5	11.2	2.6	1.3
45	91 113	40 199	37 067	11 411	1 768	668	100.0	44.1	40.7	12.5	1.9	0.7
50	96 033	42 762	40 901	10 521	1 376	473	100.0	44.5	42.6	11.0	1.4	0.5
55	75 090	31 468	32 049	10 060	1 172	341	100.0	41.9	42.7	13.4	1.6	0.5
56	73 917	31 259	31 087	9 962	1 239	370	100.0	42.3	42.1	13.5	1.7	0.5
57	72 689	30 867	30 264	9 936	1 269	353	100.0	42.5	41.6	13.7	1.7	0.5
58	71 144	30 316	29 100	10 066	1 286	376	100.0	42.6	40.9	14.1	1.8	0.5
59	69 556	29 440	28 575	9 914	1 271	356	100.0	42.3	41.1	14.3	1.8	0.5
60	67 260	28 252	27 684	9 749	1 271	304	100.0	42.0	41.2	14.5	1.9	0.5
61	64 392	27 236	26 020	9 533	1 258	345	100.0	42.3	40.4	14.8	2.0	0.5
62	64 496	27 647	25 956	9 347	1 201	345	100.0	42.9	40.2	14.5	1.9	0.5
63	65 396	28 638	25 612	9 512	1 280	354	100.0	43.8	39.2	14.5	2.0	0.5
H 元	63 419	28 431	24 247	9 159	1 269	313	100.0	44.8	38.2	14.4	2.0	0.5
2	63 299	28 806	24 120	8 852	1 234	287	100.0	45.5	38.1	14.0	1.9	0.5
3	65 928	31 353	24 513	8 453	1 313	296	100.0	47.6	37.2	12.8	2.0	0.4
4	65 219	31 674	24 141	7 928	1 154	322	100.0	48.6	37.0	12.2	1.8	0.5
5	66 268	32 499	24 506	7 828	1 137	298	100.0	49.0	37.0	11.8	1.7	0.4
6	69 776	34 714	25 636	7 960	1 169	297	100.0	49.8	36.7	11.4	1.7	0.4
7	67 750	33 651	24 985	7 619	1 229	266	100.0	49.7	36.9	11.2	1.8	0.4
8	68 695	33 612	26 163	7 400	1 229	291	100.0	48.9	38.1	10.8	1.8	0.4
9	67 585	32 803	25 663	7 673	1 146	300	100.0	48.5	38.0	11.4	1.7	0.4
10	67 144	32 796	25 458	7 421	1 145	324	100.0	48.8	37.9	11.1	1.7	0.5
11	65 711	32 800	24 531	7 028	1 050	302	100.0	49.9	37.3	10.7	1.6	0.5
12	66 376	32 976	24 707	7 147	1 240	306	100.0	49.7	37.2	10.8	1.9	0.5
13	65 417	32 698	24 169	7 067	1 159	324	100.0	50.0	36.9	10.8	1.8	0.5
14	64 762	32 721	23 922	6 690	1 089	340	100.0	50.5	36.9	10.3	1.7	0.5
15	63 224	31 303	23 896	6 633	1 083	309	100.0	49.5	37.8	10.5	1.7	0.5
16	61 946	30 465	23 604	6 493	1 095	289	100.0	49.2	38.1	10.5	1.8	0.5
17	59 731	29 389	22 669	6 318	1 012	343	100.0	49.2	38.0	10.6	1.7	0.6
18	61 201	29 931	23 133	6 650	1 156	331	100.0	48.9	37.8	10.9	1.9	0.5
19	60 818	29 232	23 050	6 935	1 222	379	100.0	48.1	37.9	11.4	2.0	0.6
20	60 520	28 959	22 902	7 077	1 229	353	100.0	47.9	37.8	11.7	2.0	0.6
21	59 725	28 989	22 213	6 944	1 192	387	100.0	48.5	37.2	11.6	2.0	0.6
22	59 437	28 748	22 138	6 886	1 289	376	100.0	48.4	37.2	11.6	2.2	0.6
23	58 059	28 081	21 419	6 902	1 255	402	100.0	48.4	36.9	11.9	2.2	0.7
24	56 943	27 253	21 385	6 710	1 230	365	100.0	47.9	37.6	11.8	2.2	0.6
25	57 470	27 463	21 694	6 699	1 221	393	100.0	47.8	37.7	11.7	2.1	0.7
26	55 765	26 732	20 980	6 443	1 229	381	100.0	47.9	37.6	11.6	2.2	0.7
27	<u>56 078</u>	27 071	20 895	6 570	1 156	385	100.0	48.3	37.3	11.7	2.1	0.7
28	<u>54 452</u>	25 947	20 391	6 473	1 206	430	100.0	47.7	37.5	11.9	2.2	0.8
29	<u>53 076</u>	25 053	20 163	6 284	1 169	400	100.0	47.2	38.0	11.8	2.2	0.8
30	51 241	24 013	19 571	6 118	1 152	387	100.0	46.9	38.2	11.9	2.2	0.8

注1：昭和40年以前の第3子以降には、出生順位不詳を含む。

注2：厚生労働省は過去数値の再集計結果について、本表の作成時点で出生数の総数の修正は公表（下線部分）し、出生順位別の数値の修正は未公表（公表時期未定）のため、総数と出生順位別の数値の合計が一致しない。

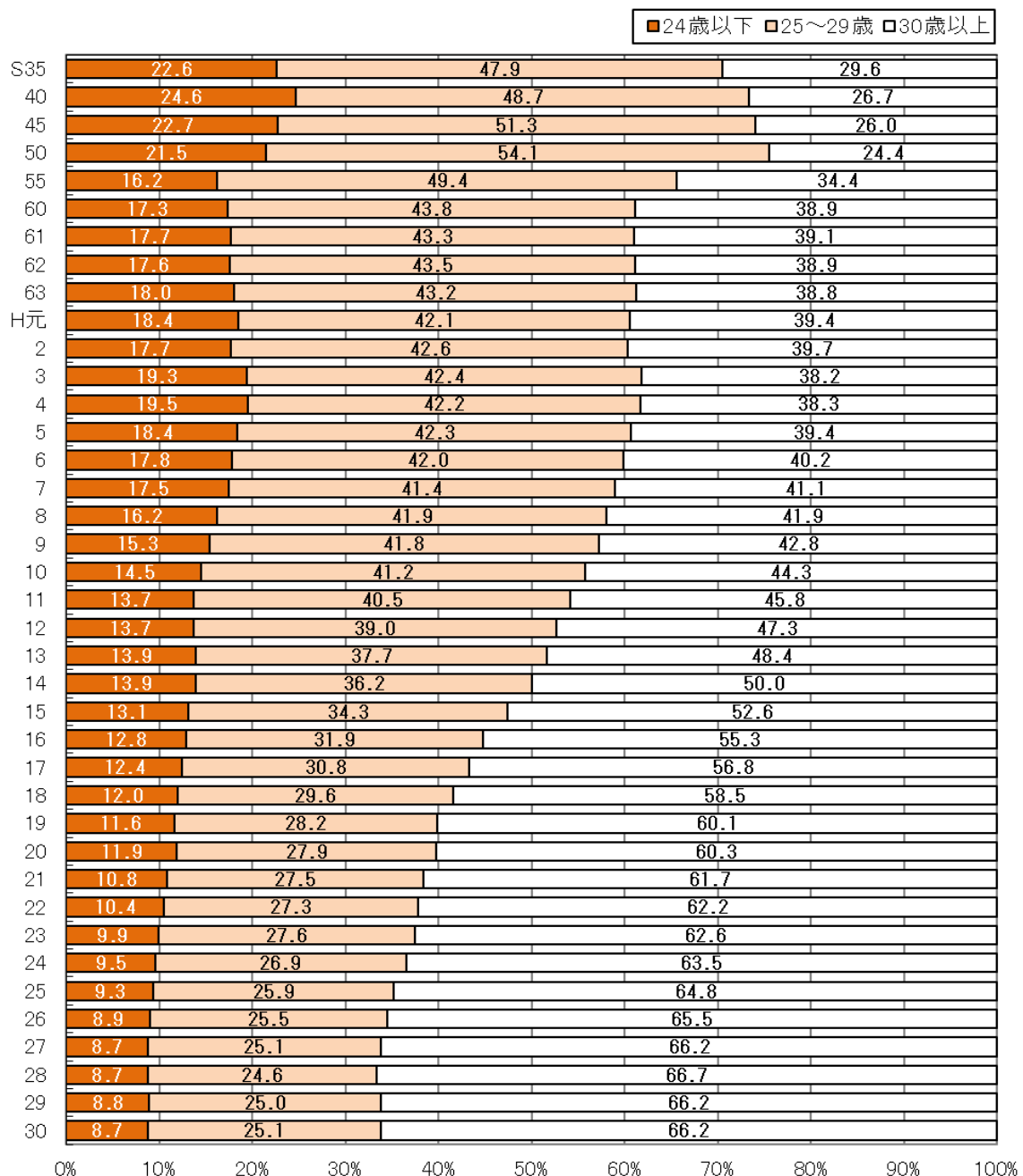
オ 母の年齢階級別にみた出生の動向

母の年齢階級別に出生数の構成割合をみると、25～29歳の母からの出生は昭和51年の57.0%をピークとして減少傾向にあり、平成19年からはピーク時の2分の1を下回っている。平成30年は25.1%と前年から0.1ポイント上回った。

また、24歳以下の割合も平成5年以降減少傾向にある。平成30年は8.7%と前年から0.1ポイント下回った。

一方、30歳以上の割合は平成4年以降一貫して増加していたが、平成30年は前年と同じく66.2%であった。平成19年以降は出生数全体の6割以上を占める傾向にある。（図－4、表－6）

図－4 母の年齢階級別にみた出生割合の年次推移（埼玉県）



注：年齢不詳を除く出生数に対する割合である。

表－6 母の年齢階級別にみた出生数及び構成割合の年次推移

埼玉県

	出 生 数									構 成 割 合							
	総数	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	不詳	総数	19歳以下	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上
										%	%	%	%	%	%	%	%
S 35	43 421	400	9 397	20 787	9 695	2 607	510	25	-	100.0	0.9	21.6	47.9	22.3	6.0	1.2	0.1
40	66 585	689	15 706	32 426	14 633	2 745	367	18	1	100.0	1.0	23.6	48.7	22.0	4.1	0.6	0.0
45	91 113	828	19 894	46 722	19 364	3 895	381	20	9	100.0	0.9	21.8	51.3	21.3	4.3	0.4	0.0
50	96 033	675	19 958	51 928	19 542	3 501	418	11	-	100.0	0.7	20.8	54.1	20.3	3.6	0.4	0.0
55	75 090	700	11 453	37 110	21 768	3 648	394	16	1	100.0	0.9	15.3	49.4	29.0	4.9	0.5	0.0
60	67 260	954	10 664	29 482	20 257	5 422	470	10	1	100.0	1.4	15.9	43.8	30.1	8.1	0.7	0.0
61	64 392	937	10 457	27 848	19 109	5 575	441	20	5	100.0	1.5	16.2	43.3	29.7	8.7	0.7	0.0
62	64 496	969	10 374	28 069	19 077	5 458	530	16	3	100.0	1.5	16.1	43.5	29.6	8.5	0.8	0.0
63	65 396	1 018	10 753	28 253	19 210	5 534	616	9	3	100.0	1.6	16.4	43.2	29.4	8.5	0.9	0.0
H 元	63 419	1 060	10 630	26 726	18 876	5 426	680	19	2	100.0	1.7	16.8	42.1	29.8	8.6	1.1	0.0
2	63 299	1 050	10 163	26 974	18 971	5 353	775	12	1	100.0	1.7	16.1	42.6	30.0	8.5	1.2	0.0
3	65 928	1 124	11 630	27 973	19 092	5 331	750	19	9	100.0	1.7	17.6	42.4	29.0	8.1	1.1	0.0
4	65 219	1 073	11 635	27 523	18 978	5 343	649	15	3	100.0	1.6	17.8	42.2	29.1	8.2	1.0	0.0
5	66 268	920	11 255	28 004	19 901	5 424	741	22	1	100.0	1.4	17.0	42.3	30.0	8.2	1.1	0.0
6	69 776	855	11 563	29 321	21 417	5 876	716	25	3	100.0	1.2	16.6	42.0	30.7	8.4	1.0	0.0
7	67 750	793	11 053	28 080	21 277	5 760	768	18	1	100.0	1.2	16.3	41.4	31.4	8.5	1.1	0.0
8	68 695	711	10 404	28 773	21 883	6 181	723	19	1	100.0	1.0	15.1	41.9	31.9	9.0	1.1	0.0
9	67 585	802	9 557	28 277	21 959	6 210	756	24	-	100.0	1.2	14.1	41.8	32.5	9.2	1.1	0.0
10	67 144	817	8 921	27 643	22 429	6 566	749	19	-	100.0	1.2	13.3	41.2	33.4	9.8	1.1	0.0
11	65 711	784	8 207	26 604	22 606	6 745	739	26	-	100.0	1.2	12.5	40.5	34.4	10.3	1.1	0.0
12	66 376	943	8 130	25 874	23 294	7 285	827	23	-	100.0	1.4	12.2	39.0	35.1	11.0	1.2	0.0
13	65 417	1 014	8 075	24 682	23 462	7 385	776	21	2	100.0	1.6	12.3	37.7	35.9	11.3	1.2	0.0
14	64 762	1 115	7 862	23 433	23 755	7 642	931	23	1	100.0	1.7	12.1	36.2	36.7	11.8	1.4	0.0
15	63 224	1 006	7 272	21 664	24 056	8 183	1 015	27	1	100.0	1.6	11.5	34.3	38.0	12.9	1.6	0.0
16	61 946	916	7 036	19 745	24 371	8 792	1 065	21	-	100.0	1.5	11.4	31.9	39.3	14.2	1.7	0.0
17	59 731	897	6 535	18 382	23 643	9 175	1 069	30	-	100.0	1.5	10.9	30.8	39.6	15.4	1.8	0.1
18	61 201	811	6 526	18 088	24 437	10 116	1 200	23	-	100.0	1.3	10.7	29.6	39.9	16.5	2.0	0.0
19	60 818	797	6 274	17 169	23 819	11 312	1 405	41	1	100.0	1.3	10.3	28.2	39.2	18.6	2.3	0.1
20	60 520	874	6 321	16 856	23 044	11 869	1 518	37	1	100.0	1.4	10.4	27.9	38.1	19.6	2.5	0.1
21	59 725	745	5 694	16 452	22 441	12 634	1 734	24	1	100.0	1.2	9.5	27.5	37.6	21.2	2.9	0.0
22	59 437	684	5 517	16 239	21 681	13 231	2 041	44	-	100.0	1.2	9.3	27.3	36.5	22.3	3.4	0.1
23	58 059	673	5 054	16 002	20 974	13 100	2 212	44	-	100.0	1.2	8.7	27.6	36.1	22.6	3.8	0.1
24	56 943	667	4 762	15 338	20 743	12 926	2 472	35	-	100.0	1.2	8.4	26.9	36.4	22.7	4.3	0.1
25	57 470	626	4 736	14 865	20 822	13 558	2 806	56	1	100.0	1.1	8.2	25.9	36.2	23.6	4.9	0.1
26	55 765	642	4 339	14 246	20 360	13 243	2 868	66	1	100.0	1.2	7.8	25.5	36.5	23.7	5.1	0.1
27	<u>56 078</u>	558	4 335	14 075	20 748	13 201	3 086	73	1	100.0	1.0	7.7	25.1	37.0	23.5	5.5	0.1
28	<u>54 452</u>	501	4 247	13 372	20 353	12 874	3 025	75	-	100.0	0.9	7.8	24.6	37.4	23.6	5.6	0.1
29	<u>53 076</u>	501	4 184	13 259	19 371	12 642	3 040	72	-	100.0	0.9	7.9	25.0	36.5	23.8	5.7	0.1
30	51 241	446	4 014	12 862	18 869	12 024	2 937	89	-	100.0	0.9	7.8	25.1	36.8	23.5	5.7	0.2

注1：構成割合は、年齢不詳を除く出生数に対するものである。

注2：厚生労働省は過去数値の再集計結果について、本表の作成時点で出生数の総数の修正は公表（下線部分）し、母の年齢階級別出生数の数値の修正は未公表（公表時期未定）のため、総数と母の年齢階級別出生数の合計が一致しない。

(2) 死亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は67,726人で、前年の65,770人より1,956人増加した。

死亡率は人口千人に対し9.4で、前年の9.2を0.2ポイント上回った。全国（11.0）と比較すると1.6ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－7、図－5）

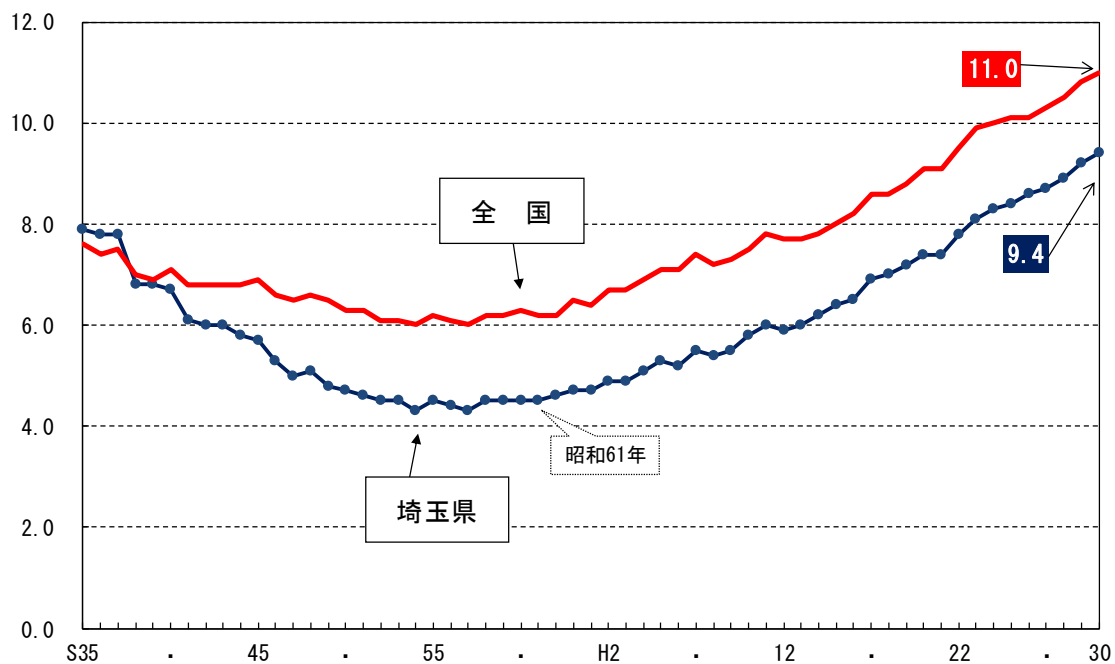
表－7 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799
	全国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5
	全国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4
		12	17	22	26	27	28	29	30
数	埼玉県	40 486	48 095	55 487	61 269	62 566	63 470	65 770	67 726
	全国	961 653	1 083 796	1 197 014	1 273 025	1 290 510	1 308 158	1 340 567	1 362 470
率	埼玉県	5.9	6.9	7.8	8.6	8.7	8.9	9.2	9.4
	全国	7.7	8.6	9.5	10.1	10.3	10.5	10.8	11.0

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口千対）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位、平成 27 年～29 年は第 4 位、平成 30 年は第 5 位となっている。(表－8)

表－8 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低 率 順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
高 率 順	全 国	9.5		全 国	10.1		全 国	10.3		全 国	10.8		全 国	11.0	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.2	1	秋 田	14.5	1	秋 田	15.5	1	秋 田	15.8	1
	高 知	12.8	2	高 知	13.8	2	島 根	13.9	2	島 根	14.3	2	高 知	14.6	2
	島 根	12.8	3	島 根	13.7	3	高 知	13.8	3	高 知	14.3	3	島 根	14.5	3
	山 口	12.3	4	山 形	13.2	4	山 形	13.4	4	山 形	14.0	4	青 森	14.3	4
	山 形	12.1	5	山 口	13.1	5	青 森	13.1	5	徳 島	13.8	5	山 形	14.1	5
	和 歌 山	12.1	6	和 歌 山	13.1	6	徳 島	13.1	6	岩 手	13.8	6	岩 手	14.1	6
	鹿 児 島	11.9	7	徳 島	13.1	7	和 歌 山	13.1	7	青 森	13.8	7	和 歌 山	14.1	7
	徳 島	11.9	8	青 森	12.8	8	山 口	13.1	8	山 口	13.7	8	山 口	13.9	8
	岩 手	11.9	9	鳥 取	12.7	9	鹿 児 島	13.0	9	和 歌 山	13.6	9	鹿 児 島	13.8	9
鳥 取	11.9	10	鹿 児 島	12.6	10	岩 手	12.9	10	鹿 児 島	13.5	10	徳 島	13.7	10	
低 率 順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	7.8	1	沖 縄	8.0	1	沖 縄	8.4	1	沖 縄	8.5	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.1	2	神 奈 川	8.4	2	東 京	8.8	2	東 京	8.9	2
	埼 玉	7.8	3	埼 玉	8.4	3	東 京	8.5	3	神 奈 川	8.9	3	神 奈 川	9.2	3
	愛 知	8.1	4	東 京	8.5	4	埼 玉	8.7	4	埼 玉	9.2	4	愛 知	9.4	4
	東 京	8.1	5	愛 知	8.6	5	愛 知	8.8	5	愛 知	9.2	5	埼 玉	9.4	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の数出には、小数点第2位以下を考慮している。

ウ 死因

(ア) 死因順位

平成30年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 19,475人（死亡総数の28.8%）、第2位は心疾患 10,805人（16.0%）、第3位は肺炎 5,481人（8.1%）、第4位は脳血管疾患 4,910人（7.2%）、第5位は老衰 4,322人（6.4%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、老衰（60.2）が6.1ポイント、悪性新生物（271.4）が4.0ポイント、心疾患（150.6）が3.7ポイント、不慮の事故（23.1）が2.7ポイント、誤嚥性肺炎（21.4）が2.2ポイント上昇した。

一方、脳血管疾患（68.4）が1.2ポイント低下した。（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

死 因	平成30年			平成29年			平成29年との比較		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	67 726	943.9	100.0	<u>65 770</u>	916.7	100.0	1 956	27.2	
悪 性 新 生 物	19 475	271.4	28.8	19 181	267.4	29.2	294	4.0	△ 0.4
心 疾 患	10 805	150.6	16.0	10 542	146.9	16.0	263	3.7	－
肺 炎	5 481	76.4	8.1	5 452	76.0	8.3	29	0.4	△ 0.2
脳 血 管 疾 患	4 910	68.4	7.2	4 996	69.6	7.6	△ 86	△ 1.2	△ 0.4
老 衰	4 322	60.2	6.4	3 880	54.1	5.9	442	6.1	0.5
不 慮 の 事 故	1 661	23.1	2.5	1 462	20.4	2.2	199	2.7	0.3
誤 嚥 性 肺 炎	1 537	21.4	2.3	1 378	19.2	2.1	159	2.2	0.2
腎 不 全	1 211	16.9	1.8	1 203	16.8	1.8	8	0.1	－
自 殺	1 176	16.4	1.7	1 175	16.4	1.8	1	－	△ 0.1
間 質 性 肺 疾 患	1 058	14.7	1.6	1 026	14.3	1.6	32	0.4	－
小 計	51 636	719.7	76.2	50 295	701.1	76.5	1 341	18.6	△ 0.3
そ の 他	16 090	224.3	23.8	15 475	215.7	23.5	615	8.6	0.3

注：厚生労働省は過去数値の再集計結果について、本表作成時点で死亡数の総数の修正は公表（下線部分）し、死因別の数値の修正は未公表（公表時期未定）のため、総数と主な死因別の数値の合計が一致しない。

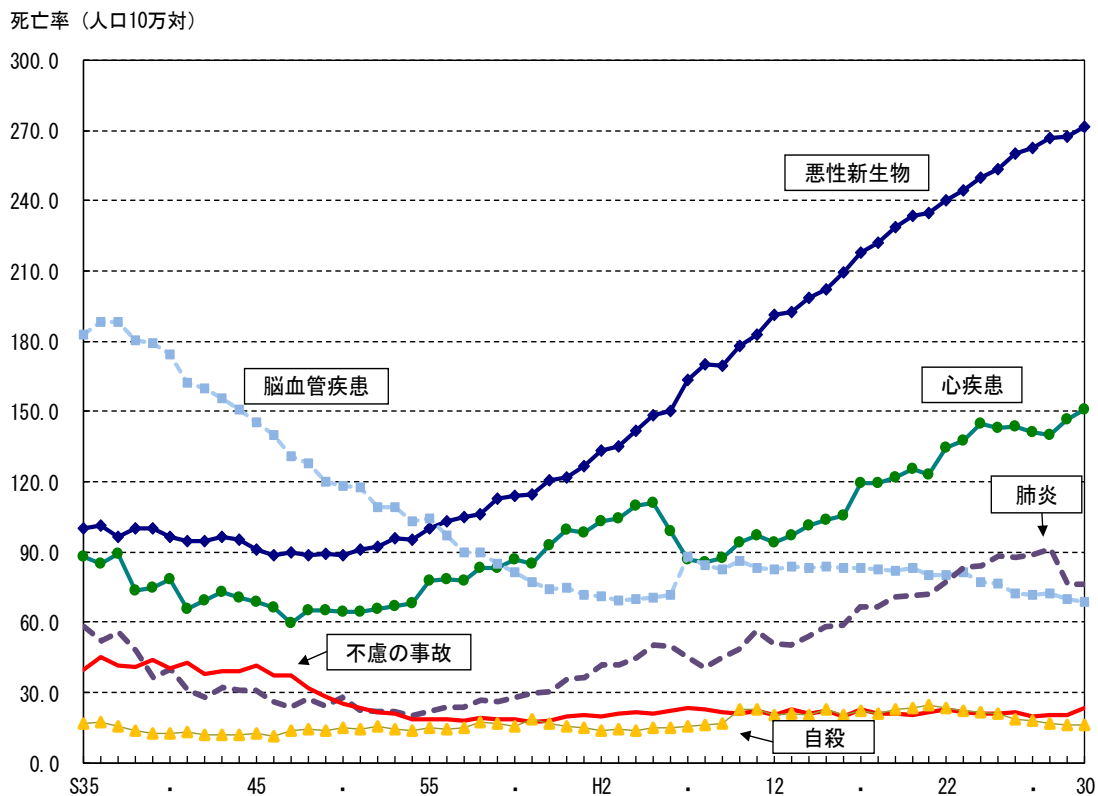
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、平成30年は271.4となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、平成30年の死亡総数に占める割合は28.8%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成30年の死亡総数に占める割合は16.0%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成30年の死亡総数に占める割合は7.2%となっている。（表－9、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び平成7年の脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、原死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図－6の「注」を参照）。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

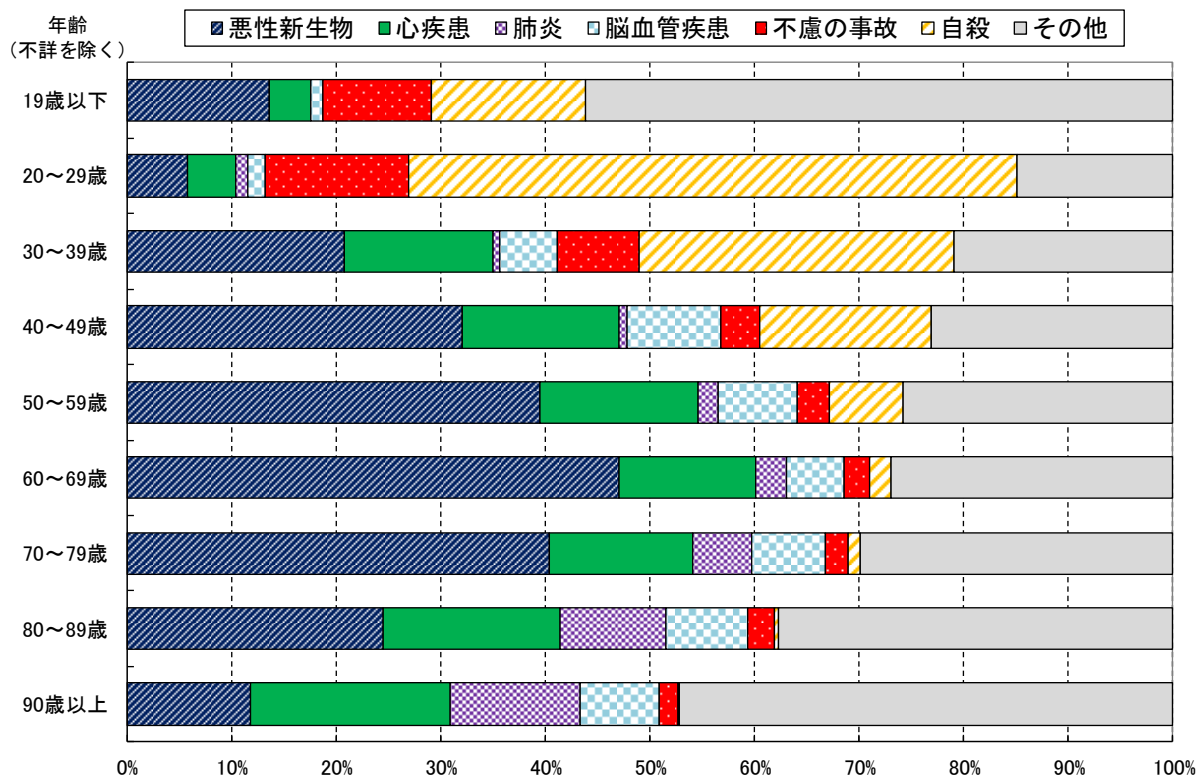
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。なお、逆に肺炎は減少している。

平成29年の「肺炎」の低下の主要因は、平成29年1月適用の死因分類による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

年齢階級別に主要死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は19,475人で、死亡総数の28.8%を占めており、全死亡者のおよそ10人に3人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,772人で最も多く、次いで80～89歳が5,946人、60～69歳が3,397人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が47.0%で最も多く、次いで70～79歳が40.3%、50～59歳が39.4%となっている。（表－10）

死亡率は人口10万人に対し271.4で、前年より4.0ポイント上昇した。全国は前年より1.2ポイント上昇し300.7である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

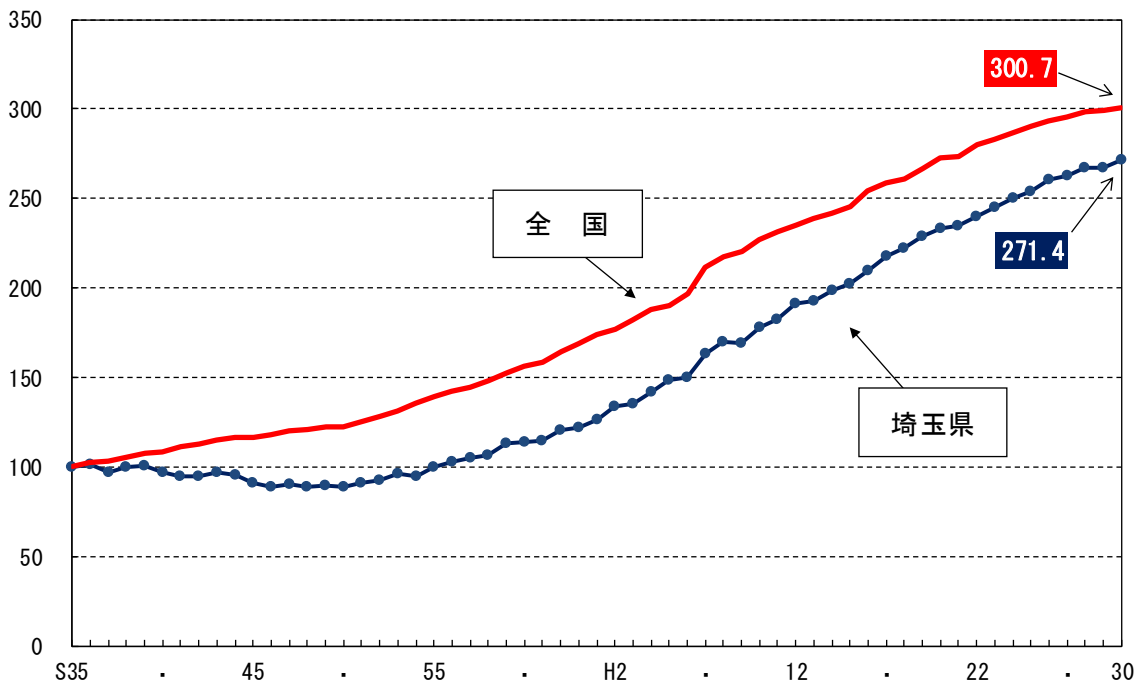
（図－8）

表－10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
悪性新生物による死亡数	19 475	34	14	92	455	1 077	3 397	6 772	5 946	1 688	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.2%	0.1%	0.5%	2.3%	5.5%	17.4%	34.8%	30.5%	8.7%	-
死亡総数に占める割合	28.8%	13.5%	5.8%	20.8%	32.0%	39.4%	47.0%	40.3%	24.5%	11.7%	-

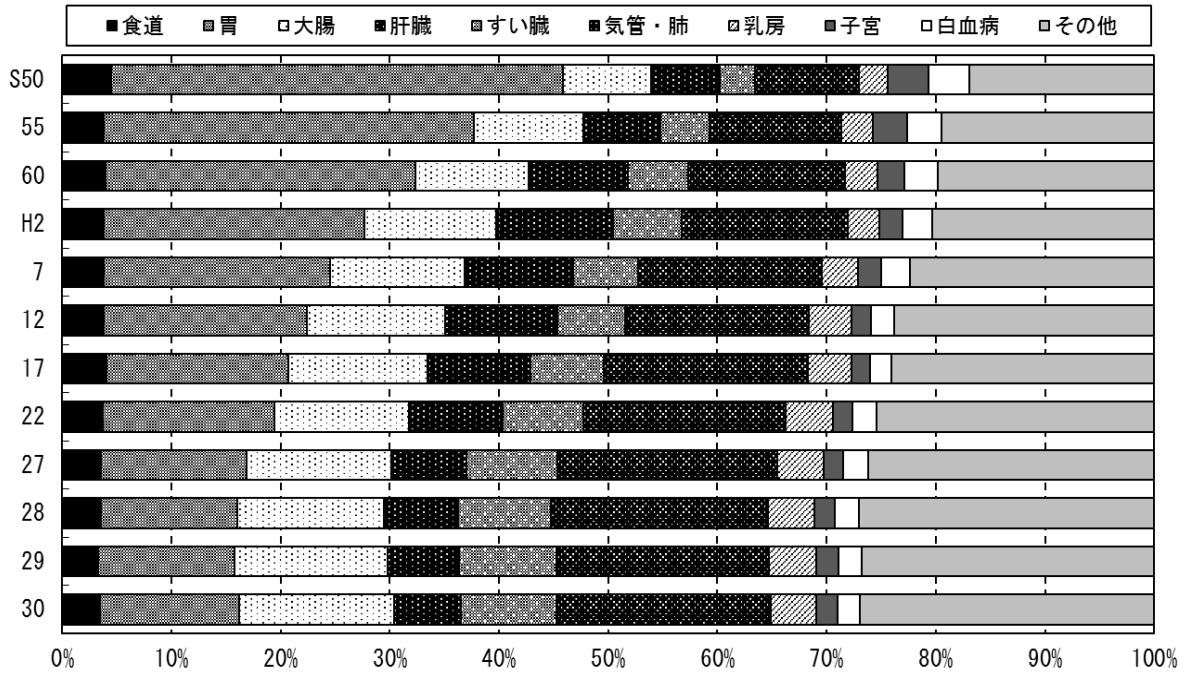
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,821人（19.6%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となった。平成30年は「大腸」が2,755人（14.1%）、「胃」が2,492人（12.8%）である。（図－9、表－11）

図－9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）



表－11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県														
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 823	19 148	19 181	19 475
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	662	684	632	670
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 520	2 384	2 394	2 492
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 494	2 571	2 690	2 755
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 694	1 778	1 846	1 880
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	800	793	844	875
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 294	1 299	1 262	1 192
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 567	1 624	1 702	1 705
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 788	3 814	3 740	3 821
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	806	824	829	804
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	331	352	385	396
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	435	427	409	396
その他	389	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 926	5 169	5 138	5 244
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.6	3.3	3.4
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.4	12.5	12.5	12.8
大腸	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.2	13.4	14.0	14.1
（結腸）	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.0	9.3	9.6	9.7
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1	4.4	4.5
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	6.9	6.8	6.6	6.1
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.3	8.5	8.9	8.8
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	20.1	19.9	19.5	19.6
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.3	4.3	4.3	4.1
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.8	1.8	2.0	2.0
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.3	2.2	2.1	2.0
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.2	27.0	26.8	26.9

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は10,805人で、死亡総数の16.0%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が4,093人で最も多く、次いで90歳以上が2,744人、70～79歳が2,312人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が19.1%で最も多く、次いで80～89歳が16.9%、40～49歳及び50～59歳が15.1%の順となっている。（表－12）

死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死亡分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せたものの、その後は上昇傾向にあり、平成30年は前年より3.7ポイント上昇し150.6であった。全国は前年より3.2ポイント上昇し167.6である。（図－10）

表－12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
心疾患による死亡数	10 805	10	11	63	214	412	946	2 312	4 093	2 744	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.6%	2.0%	3.8%	8.8%	21.4%	37.9%	25.4%	－
死亡総数に占める割合	16.0%	4.0%	4.5%	14.2%	15.1%	15.1%	13.1%	13.8%	16.9%	19.1%	－

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(エ) 肺炎

肺炎による死亡数は5,481人で、死亡総数の8.1%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,456人で最も多く、次いで90歳以上が1,797人、70～79歳が942人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が12.5%で最も多く、次いで80～89歳が10.1%、70～79歳が5.6%の順となっている。（表-13）

死亡率（人口10万対）は総じて上昇傾向にあったが、平成29年1月適用の死亡分類による原死因選択ルールの特化による影響から、平成29年に大幅に低下している。平成30年は前年より0.4ポイント上昇し76.4となった。全国は前年より1.5ポイント低下し76.2となった。（図-11）

表-13 肺炎による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
肺炎による死亡数	5 481	-	3	3	10	54	216	942	2 456	1 797	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	-	0.1%	0.1%	0.2%	1.0%	3.9%	17.2%	44.8%	32.8%	-
死亡総数に占める割合	8.1%	-	1.2%	0.7%	0.7%	2.0%	3.0%	5.6%	10.1%	12.5%	-

図-11 肺炎による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(オ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は4,910人で、死亡総数の7.2%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が1,876人で最も多く、次いで70～79歳が1,193人、90歳以上が1,078人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、40～49歳が8.9%で最も多く、次いで80～89歳が7.7%、50～59歳及び90歳以上が7.5%の順となっている。（表－14）

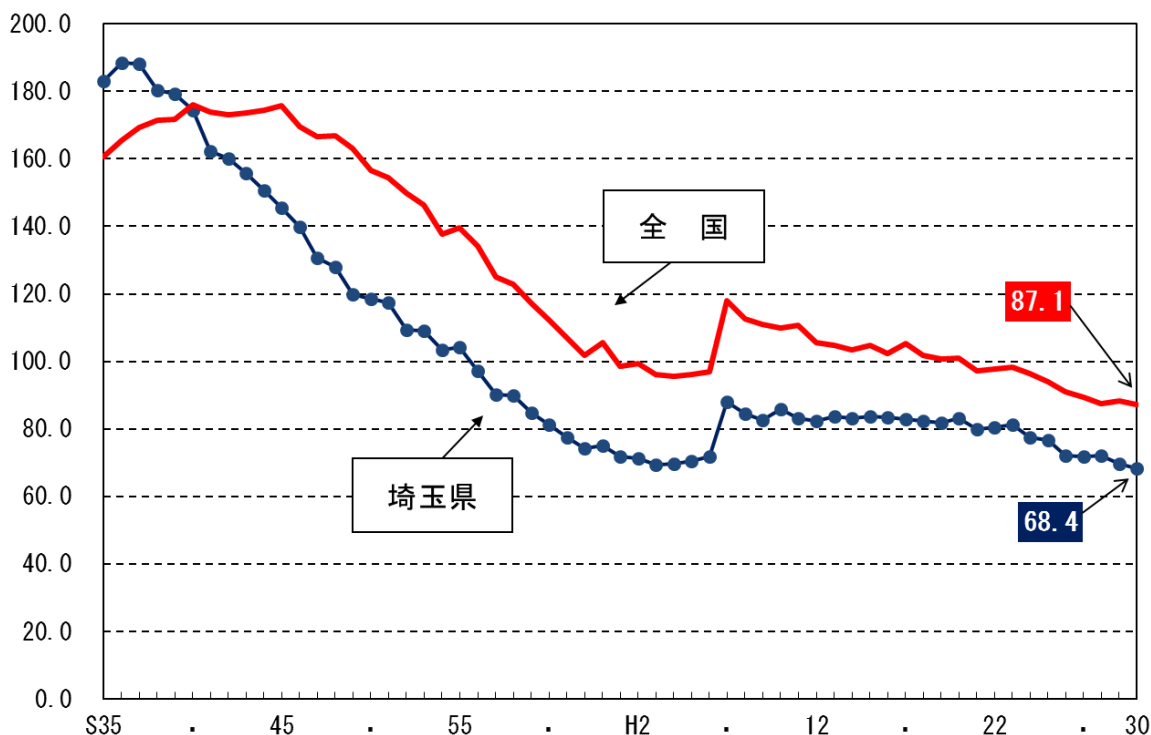
死亡率（人口10万対）は低下傾向にあり、平成30年は前年より1.2ポイント低下し68.4であった。全国は前年より1.1ポイント低下し87.1である。（図－12）

表－14 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県											
	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
脳血管疾患による死亡数	4 910	3	4	24	127	205	400	1 193	1 876	1 078	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.5%	2.6%	4.2%	8.1%	24.3%	38.2%	22.0%	-
死亡総数に占める割合	7.2%	1.2%	1.7%	5.4%	8.9%	7.5%	5.5%	7.1%	7.7%	7.5%	-

図－12 脳血管疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(カ) 不慮の事故

不慮の事故による死亡数は1,661人で、死亡総数の2.5%を占めている。前年より199人増加した。

年齢階級別にみると、80～89歳が639人で最も多く、次いで70～79歳が358人、90歳以上が257人の順となっている。（表－15）

死亡率（人口10万対）は前年より2.7ポイント上昇し23.1であった。

不慮の事故のうち交通事故による死亡数は減少傾向にある。平成30年の死亡数は221人で、前年より18人減少した。死亡率（人口10万対）は前年から0.2ポイント低下し3.1であった。

なお全国では、不慮の事故が前年より0.8ポイント上昇し33.2、交通事故が前年より0.3ポイント低下し3.7であった。（表－16）

表－15 不慮の事故、交通事故による死亡数及び割合（年齢階級別）

埼玉県											
	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	67 726	251	242	443	1 421	2 731	7 232	16 791	24 243	14 371	1
不慮の事故による死亡数	1 661	26	33	35	54	85	174	358	639	257	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	1.6%	2.0%	2.1%	3.3%	5.1%	10.5%	21.6%	38.5%	15.5%	-
死亡総数に占める割合	2.5%	10.4%	13.6%	7.9%	3.8%	3.1%	2.4%	2.1%	2.6%	1.8%	-
不慮の事故のうち交通事故による死亡数	221	14	17	14	18	25	39	49	42	3	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	6.3%	7.7%	6.3%	8.1%	11.3%	17.6%	22.2%	19.0%	1.4%	-
不慮の事故に占める交通事故の割合	13.3%	53.8%	51.5%	40.0%	33.3%	29.4%	22.4%	13.7%	6.6%	1.2%	-

表－16 不慮の事故、交通事故による死亡数の年次推移

	不慮の事故					交通事故				
	埼玉県		全国		埼玉県			全国		不慮の事故に占める割合
	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	数	率(人口10万対)	不慮の事故に占める割合	数	率(人口10万対)	
S 35	970	39.9	38 964	41.7	468	19.3	48.2	13 429	14.4	34.5
40	1 207	40.0	40 188	40.9	671	22.3	55.6	16 257	16.5	40.5
45	1 599	41.4	43 802	42.5	983	25.5	61.5	21 535	20.9	49.2
50	1 201	25.0	33 710	30.3	628	13.1	52.3	14 206	12.8	42.1
55	1 018	18.8	29 217	25.1	488	9.0	47.9	11 752	10.1	40.2
60	1 085	18.5	29 597	24.6	587	10.0	54.1	12 660	10.5	42.8
H 2	1 262	19.8	32 122	26.2	703	11.0	55.7	14 631	11.9	45.5
7	1 575	23.5	45 323	36.5	683	10.2	43.4	15 147	12.2	33.4
12	1 405	20.4	39 484	31.4	541	7.9	38.5	12 857	10.2	32.6
17	1 577	22.6	39 863	31.6	472	6.8	29.9	10 028	7.9	25.2
22	1 635	23.0	40 732	32.2	300	4.2	18.3	7 222	5.7	17.7
26	1 523	21.3	39 030	31.1	254	3.6	16.7	5 717	4.6	14.6
27	1 406	19.6	38 310	30.6	252	3.5	17.9	5 646	4.5	14.7
28	1 455	20.3	38 314	30.6	248	3.5	17.0	5 280	4.2	13.8
29	1 462	20.4	40 332	32.4	239	3.3	16.3	5 004	4.0	12.4
30	1 661	23.1	41 238	33.2	221	3.1	13.3	4 595	3.7	11.1

注：昭和35年から平成2年は「自動車事故」の数、平成7年以降は「交通事故」の数である。

(キ) 自殺

自殺による死亡数は1,176人（男性809人、女性367人）で、死亡総数の1.7%を占めている。前年より1人増加した。死亡率は人口10万人に対し16.4で、前年と同率であった。（表-17）

表-17 自殺による死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
数	埼玉県	413	375	480	723	787	909	885	1 043	1 414	1 559	1 642	1 287	1 194	1 175	1 176
	全国	20 143	14 444	15 728	19 975	20 542	23 383	20 088	21 420	30 251	30 553	29 554	23 152	21 021	20 468	20 031
率	埼玉県	17.0	12.4	12.4	15.0	14.6	15.5	13.9	15.6	20.6	22.4	23.1	18.0	16.7	16.4	16.4
	全国	21.6	14.7	15.3	18.0	17.7	19.4	16.4	17.2	24.1	24.2	23.4	18.5	16.8	16.4	16.1

注：率は人口10万対である。

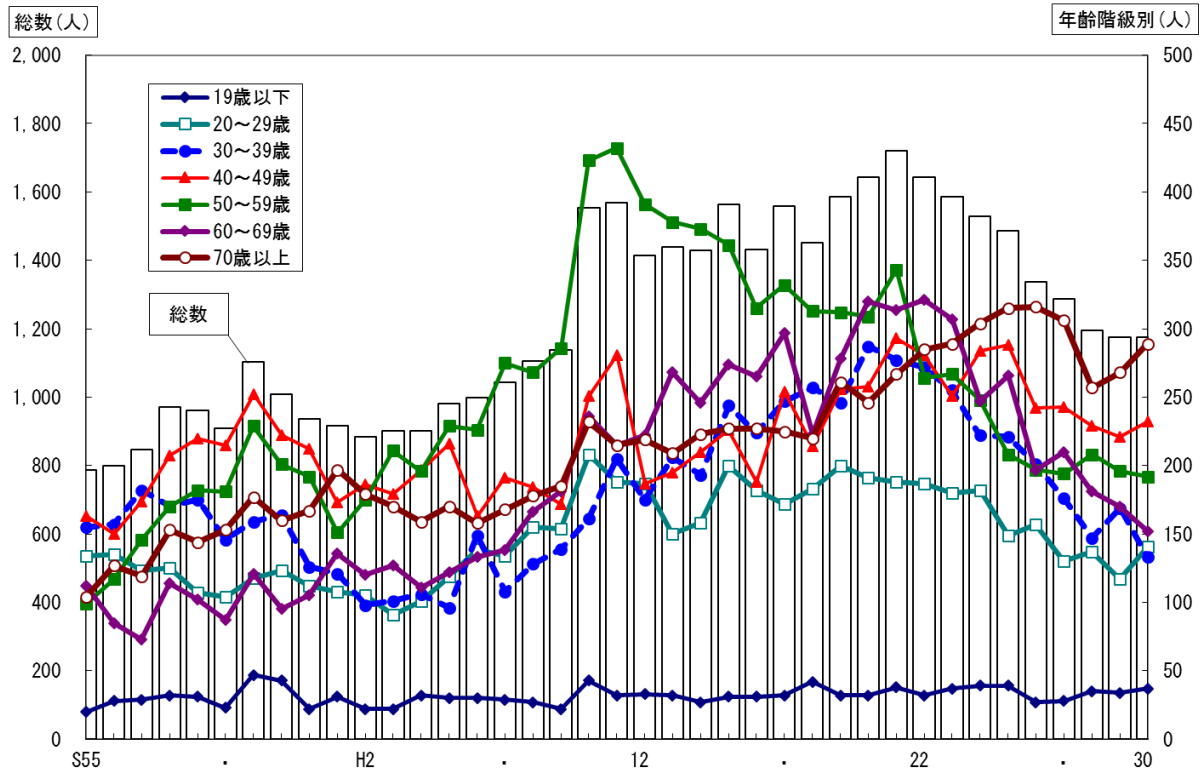
表-18 自殺による死亡数及び割合の年次推移（年齢階級別）

		総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	
S	35	413	47	143	45	37	44	47	50	
	40	375	32	88	65	36	37	59	58	
	45	480	28	117	81	53	57	62	82	
	50	723	32	158	128	119	60	104	122	
	55	787	20	134	155	163	99	112	104	
	60	909	23	104	146	215	181	87	153	
	H	2	885	22	105	98	186	175	120	179
		7	1 043	29	134	108	191	275	138	168
		12	1 414	33	187	175	187	391	222	219
		17	1 559	32	172	247	254	332	297	225
		22	1 642	32	187	272	281	264	321	285
		27	1 287	28	130	176	243	194	210	306
		28	1 194	35	137	147	229	208	181	257
29	1 175	34	117	169	221	196	170	268		
30	1 176	37	141	133	232	192	152	289		
S	35	100.0	11.4	34.6	10.9	9.0	10.7	11.4	12.1	
	40	100.0	8.5	23.5	17.3	9.6	9.9	15.7	15.5	
	45	100.0	5.8	24.4	16.9	11.0	11.9	12.9	17.1	
	50	100.0	4.4	21.9	17.7	16.5	8.3	14.4	16.9	
	55	100.0	2.5	17.0	19.7	20.7	12.6	14.2	13.2	
	60	100.0	2.5	11.4	16.1	23.7	19.9	9.6	16.8	
	H	2	100.0	2.5	11.9	11.1	21.0	19.8	13.6	20.2
		7	100.0	2.8	12.8	10.4	18.3	26.4	13.2	16.1
		12	100.0	2.3	13.2	12.4	13.2	27.7	15.7	15.5
		17	100.0	2.1	11.0	15.8	16.3	21.3	19.1	14.4
		22	100.0	1.9	11.4	16.6	17.1	16.1	19.5	17.4
		27	100.0	2.2	10.1	13.7	18.9	15.1	16.3	23.8
		28	100.0	2.9	11.5	12.3	19.2	17.4	15.2	21.5
29	100.0	2.9	10.0	14.4	18.8	16.7	14.5	22.8		
30	100.0	3.1	12.0	11.3	19.7	16.3	12.9	24.6		

注：70歳以上には年齢不詳を含む。

自殺による死亡総数は近年減少傾向にある。平成30年の死亡数を年齢階級別にみると、30～39歳、50～59歳及び60～69歳が減少した。（表－18、図－13）

図－13 自殺による死亡数の年次推移（年齢階級別）（埼玉県）



(ク) 妊産婦死亡

妊産婦死亡数は2人で、前年より2人減少した。妊産婦死亡率（出産（出生＋死産）10万対）は前年より3.6ポイント低下し3.8であった。全国の妊産婦死亡率は前年より0.1ポイント低下し3.3である。（表－19、図－14）

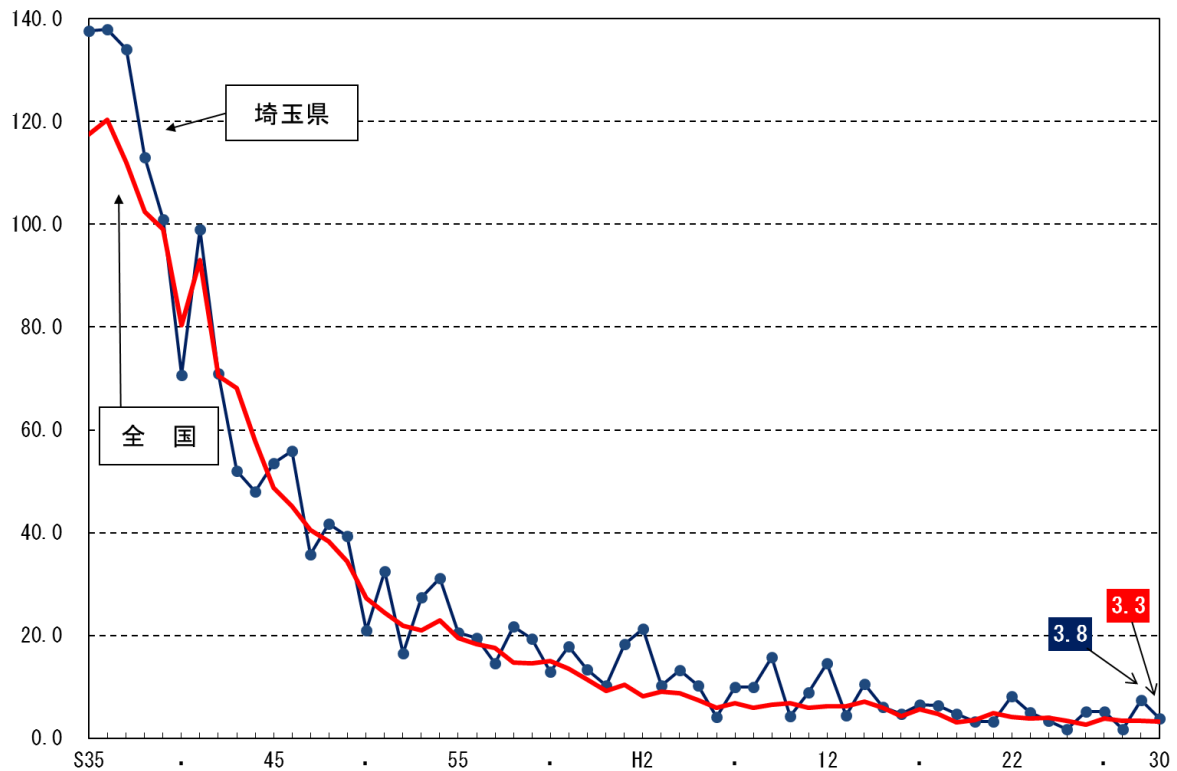
表－19 妊産婦死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
数	埼玉県	65	50	51	21	16	9	14	7	10	4	5	3	1	4	2
	全国	2 097	1 597	1 008	546	323	226	105	85	78	62	45	39	34	33	31
率	埼玉県	137.7	70.6	53.5	21.0	20.5	12.9	21.3	10.0	14.6	6.5	8.2	5.2	1.8	7.4	3.8
	全国	117.5	80.4	48.7	27.3	19.5	15.1	8.2	6.9	6.3	5.7	4.1	3.8	3.4	3.4	3.3

注：率は出産（出生＋死産）10万対である。

図－14 妊産婦死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

妊産婦死亡率（出産10万対）



エ 市町村別にみた死亡率

死亡率（人口千対）を市町村別にみると、低率順では、戸田市（6.2）、和光市（6.3）、朝霞市（7.0）の順である。

また、高率順では、東秩父村（19.4）、長瀨町（18.2）、小鹿野町（17.6）の順である。（表-20、図-15）

表-20 市町村別にみた死亡率（低率順）

埼玉県								
順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率	順位	市町村	死亡率
1	戸田市	6.2	22	宮代町	9.2	43	熊谷市	11.2
2	和光市	6.3	23	川越市	9.2	44	杉戸町	11.3
3	朝霞市	7.0	24	坂戸市	9.3	45	羽生市	11.3
4	伊奈町	7.7	25	東松山市	9.4	46	上里町	11.7
5	八潮市	7.7	26	鴻巣市	9.4	47	嵐山町	11.9
6	吉川市	7.9	27	ふじみ野市	9.6	48	行田市	12.0
7	さいたま市	8.3	28	桶川市	9.6	49	本庄市	12.0
8	滑川町	8.4	29	白岡市	9.6	50	川島町	12.2
9	越谷市	8.4	30	春日部市	10.1	51	鳩山町	12.5
10	富士見市	8.5	31	北本市	10.1	52	越生町	12.7
11	新座市	8.5	32	久喜市	10.1	53	小川町	14.0
12	草加市	8.5	33	吉見町	10.2	54	寄居町	14.2
13	志木市	8.5	34	蓮田市	10.2	55	美里町	14.2
14	鶴ヶ島市	8.6	35	狭山市	10.2	56	秩父市	14.7
15	所沢市	8.8	36	日高市	10.3	57	皆野町	15.9
16	川口市	8.9	37	松伏町	10.6	58	ときがわ町	16.1
17	三郷市	8.9	38	深谷市	10.6	59	横瀬町	16.3
18	蕨市	8.9	39	幸手市	10.7	60	神川町	16.7
19	上尾市	9.0	40	加須市	10.7	61	小鹿野町	17.6
20	入間市	9.0	41	飯能市	10.8	62	長瀨町	18.2
21	三芳町	9.1	42	毛呂山町	10.9	63	東秩父村	19.4

注1：率は人口千対である。

注2：順位の数出には、小数点第2位以下を考慮している。

(3) 乳児死亡及び新生児死亡

乳児死亡数は89人で、前年より5人減少した。乳児死亡率は出生千人に対し1.7で、前年より0.1ポイント低下した。

乳児死亡のうち新生児死亡数は、41人で前年より5人増加した。新生児死亡率は出生千人に対し0.8で、前年より0.1ポイント上昇した。

全国は、乳児死亡率は1.9、新生児死亡率が0.9で、いずれも前年と同率であった。
(表-21、図-16、図-17)

表-21 乳児死亡及び新生児死亡の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	
乳児	数	埼玉県	1 523	1 348	1 232	1 015	558	369	280	257
		全国	49 293	33 742	25 412	19 103	11 841	7 899	5 616	5 054
	率	埼玉県	35.1	20.2	13.5	10.6	7.4	5.5	4.4	3.8
		全国	30.7	18.5	13.1	10.0	7.5	5.5	4.6	4.3
新生児	数	埼玉県	955	931	869	673	369	228	168	124
		全国	27 362	21 260	16 742	12 912	7 796	4 910	3 179	2 615
	率	埼玉県	22.0	14.0	9.5	7.0	4.9	3.4	2.7	1.8
		全国	17.0	11.7	8.7	6.8	4.9	3.4	2.6	2.2

		12	17	22	26	27	28	29	30	
乳児	数	埼玉県	210	137	133	118	111	118	94	89
		全国	3 830	2 958	2 450	2 080	1 916	1 929	1 762	1 748
	率	埼玉県	3.2	2.3	2.2	2.1	2.0	2.2	1.8	1.7
		全国	3.2	2.8	2.3	2.1	1.9	2.0	1.9	1.9
新生児	数	埼玉県	105	61	62	54	48	52	36	41
		全国	2 106	1 510	1 167	952	902	875	833	801
	率	埼玉県	1.6	1.0	1.0	1.0	0.9	1.0	0.7	0.8
		全国	1.8	1.4	1.1	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9

注：率は出生千対である。

図-16 乳児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

乳児死亡率(出生千対)

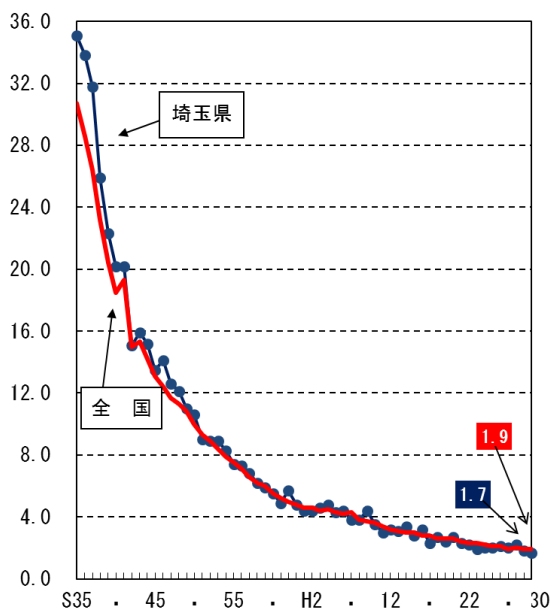
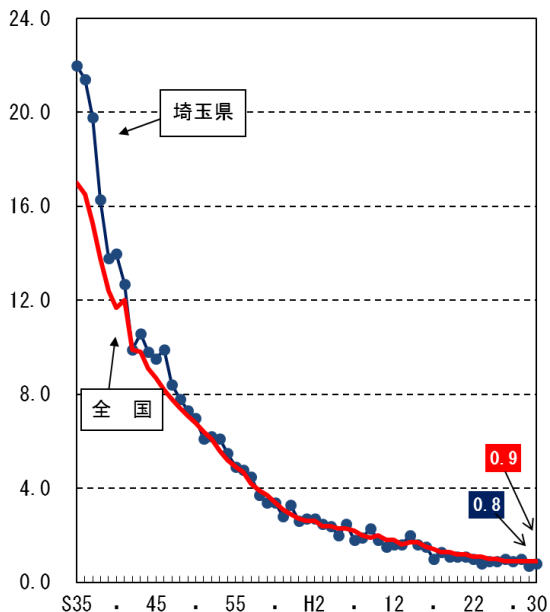


図-17 新生児死亡率の年次推移
(埼玉県・全国)

新生児死亡率(出生千対)



(4) 自然増減

自然増減数（出生数から死亡数を減じたもの）は△16,485人で、前年の△12,694人より3,791人拡大し、平成24年に戦後初めて増加局面から減少局面に転じて以降、現在もこの傾向が続いている。

年次推移をみると、第2次ベビーブーム期の昭和46～49年には75,000人を超えて増加していたが、その後急激に減少していき、平成15年に20,000人を、平成20年に10,000人を下回るようになった。

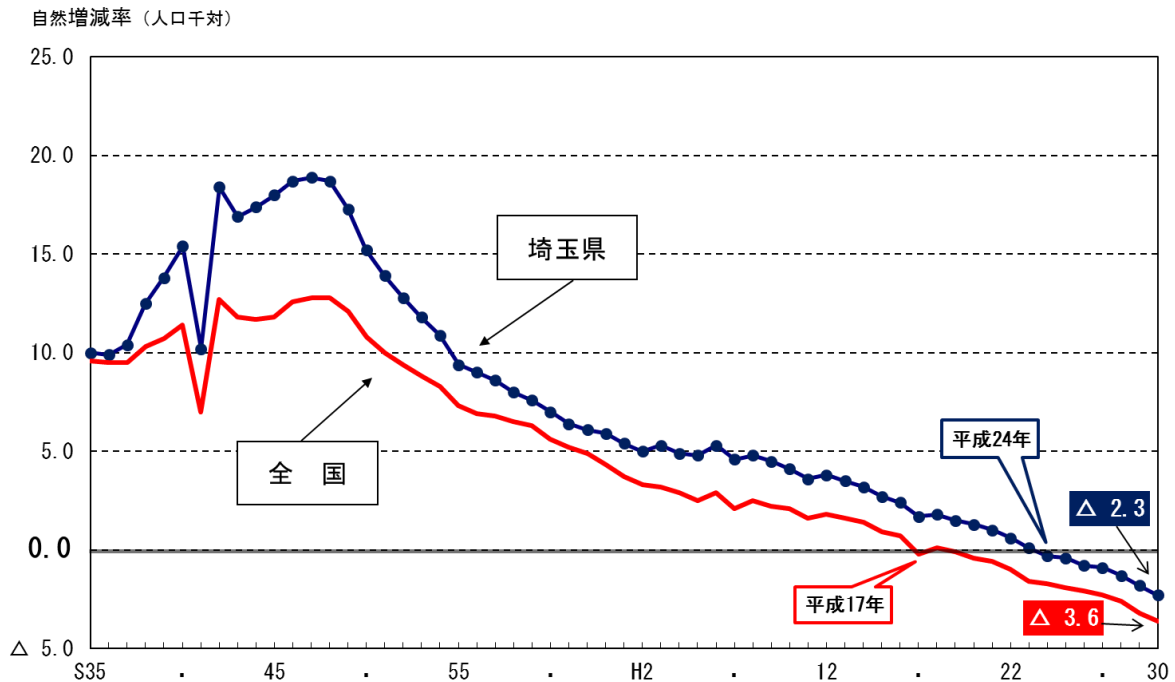
自然増減率は人口千人に対し△2.3であった。（表－22、図－18）

表－22 自然増減数及び自然増減率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	24 332	46 468	69 277	73 345	50 961	40 843	32 077	30 951
	全国	899 442	1 123 259	1 221 277	1 199 165	854 088	679 294	401 280	264 925
率	埼玉県	10.0	15.4	18.0	15.2	9.4	7.0	5.0	4.6
	全国	9.6	11.4	11.8	10.8	7.3	5.6	3.3	2.1
		12	17	22	26	27	28	29	30
数	埼玉県	25 890	11 636	3 950	△ 5 504	△ 6 488	△ 9 018	△ 12 694	△ 16 485
	全国	228 894	△ 21 266	△ 125 709	△ 269 416	△ 284 789	△ 330 916	△ 394 421	△ 444 070
率	埼玉県	3.8	1.7	0.6	△ 0.8	△ 0.9	△ 1.3	△ 1.8	△ 2.3
	全国	1.8	△ 0.2	△ 1.0	△ 2.1	△ 2.3	△ 2.6	△ 3.2	△ 3.6

注：率は人口千対である。

図－18 自然増減率の年次推移（埼玉県・全国）



市町村別にみると、高率順では、和光市（3.2）、戸田市（3.2）、朝霞市（2.5）の順である。

また、低率順では、東秩父村（△16.4）、長瀨町（△14.6）、小鹿野町（△14.4）の順である。

自然増減数・率がマイナスの市町村は、前年より2市（さいたま市、越谷市）増加して63市町村中55市町村であった。（表-23、図-19）

表-23 市町村別にみた自然増減率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率	順位	市町村	自然増減率
1	和光市	3.2	22	蕨市	△ 2.7	43	上里町	△ 5.9
2	戸田市	3.2	23	東松山市	△ 2.7	44	吉見町	△ 6.2
3	朝霞市	2.5	24	宮代町	△ 2.7	45	杉戸町	△ 6.4
4	滑川町	1.0	25	入間市	△ 3.0	46	行田市	△ 6.6
5	八潮市	1.0	26	坂戸市	△ 3.3	47	幸手市	△ 6.9
6	吉川市	0.6	27	三芳町	△ 3.4	48	川島町	△ 7.3
7	志木市	0.5	28	鴻巣市	△ 3.4	49	嵐山町	△ 7.3
8	伊奈町	0.2	29	桶川市	△ 3.5	50	毛呂山町	△ 7.5
9	さいたま市	△ 0.4	30	深谷市	△ 4.0	51	美里町	△ 7.5
10	富士見市	△ 0.5	31	春日部市	△ 4.1	52	越生町	△ 8.6
11	越谷市	△ 0.8	32	蓮田市	△ 4.1	53	秩父市	△ 8.8
12	三郷市	△ 0.8	33	狭山市	△ 4.3	54	寄居町	△ 8.9
13	新座市	△ 1.1	34	久喜市	△ 4.4	55	鳩山町	△ 9.9
14	川口市	△ 1.4	35	加須市	△ 4.7	56	小川町	△ 10.6
15	草加市	△ 1.5	36	飯能市	△ 4.9	57	横瀬町	△ 10.6
16	白岡市	△ 1.9	37	熊谷市	△ 4.9	58	皆野町	△ 11.0
17	所沢市	△ 2.1	38	北本市	△ 4.9	59	神川町	△ 12.1
18	ふじみ野市	△ 2.1	39	羽生市	△ 5.0	60	ときがわ町	△ 12.9
19	川越市	△ 2.2	40	本庄市	△ 5.2	61	小鹿野町	△ 14.4
20	鶴ヶ島市	△ 2.4	41	松伏町	△ 5.5	62	長瀨町	△ 14.6
21	上尾市	△ 2.5	42	日高市	△ 5.6	63	東秩父村	△ 16.4

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

(5) 死産

死産数は1,130胎で、前年より83胎減少した。死産の内訳をみると、自然死産は前年より77胎減少し521胎、人工死産は前年より6胎減少し609胎であった。

死産率は出産千人（胎）に対し21.6で、前年より0.7ポイント低下した。全国は0.2ポイント低下し20.9であった。（表-24、図-20、図-21）

表-24 死産数及び死産率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
死産数	埼玉県	3 794	4 237	4 277	3 795	2 792	2 630	2 324	1 944	1 907	1 637	1 375	1 350	1 181	1 213	1 130
	全国	179 281	161 617	135 095	101 862	77 446	69 009	53 892	39 403	38 393	31 818	26 560	22 621	20 941	20 364	19 614
死産率	埼玉県	80.4	59.8	44.8	38.0	35.8	37.6	35.4	27.9	27.9	26.7	22.6	23.5	21.2	22.3	21.6
	全国	100.4	81.4	65.3	50.8	46.8	46.0	42.3	32.1	31.2	29.1	24.2	22.0	21.0	21.1	20.9
(自然) 数	埼玉県	2 491	3 077	3 307	2 976	2 021	1 521	1 226	1 057	941	780	690	670	575	598	521
	全国	93 424	94 476	84 073	67 643	47 651	33 114	23 383	18 262	16 200	13 502	12 245	10 864	10 070	9 740	9 252
(自然) 率	埼玉県	52.8	43.4	34.7	29.8	25.9	21.8	18.7	15.2	13.8	12.7	11.3	11.7	10.3	11.0	9.9
	全国	52.3	47.6	40.6	33.8	28.8	22.1	18.3	14.9	13.2	12.3	11.2	10.6	10.1	10.1	9.9
(人工) 数	埼玉県	1 303	1 160	970	819	771	1 109	1 098	887	966	857	685	680	606	615	609
	全国	85 857	67 141	51 022	34 219	29 795	35 895	30 509	21 141	22 193	18 316	14 315	11 757	10 871	10 624	10 362
(人工) 率	埼玉県	27.6	16.4	10.2	8.2	9.9	15.9	16.7	12.7	14.1	14.0	11.3	11.8	10.9	11.3	11.6
	全国	48.1	33.8	24.7	17.1	18.0	23.9	23.9	17.2	18.1	16.7	13.0	11.4	10.9	11.0	11.0

注：率は出産（出生＋死産）千対である。

図-20 死産率の年次推移
(埼玉県・全国)

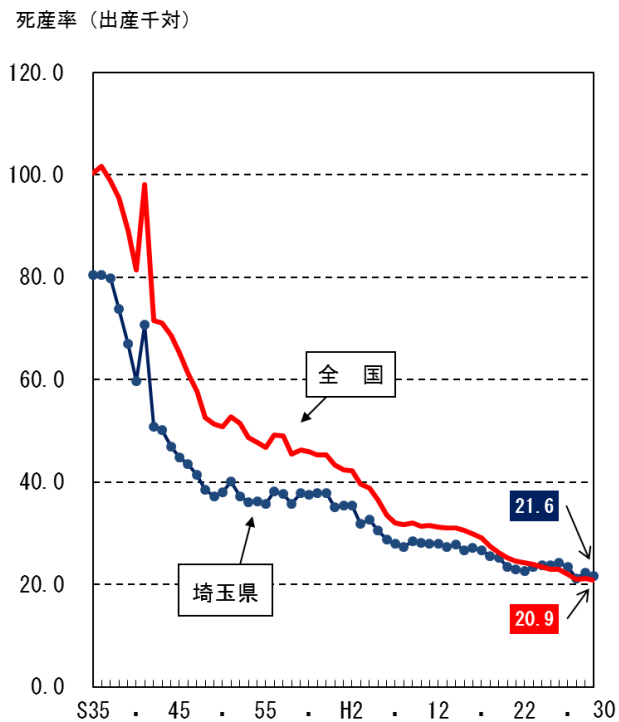
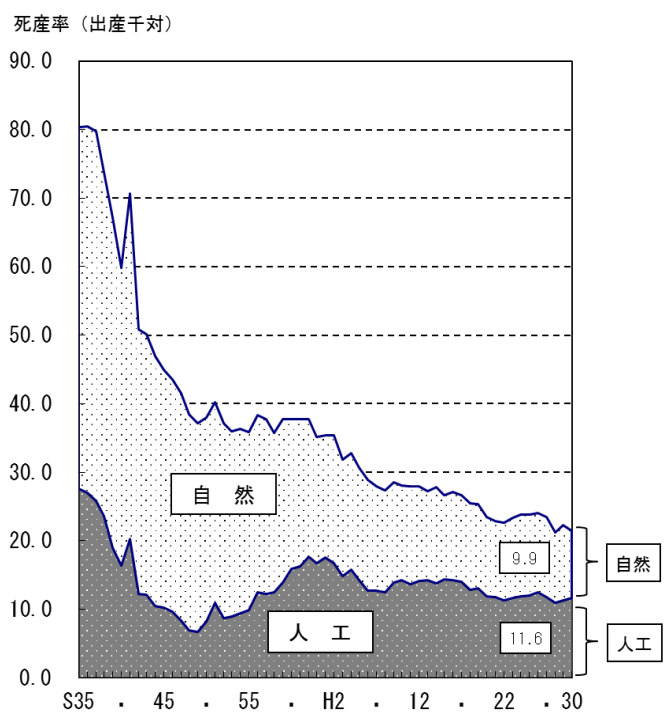


図-21 死産率（自然・人工）の年次推移（埼玉県）



(6) 周産期死亡

周産期死亡数は160人（胎）で、前年より18人（胎）減少した。

周産期死亡率は出産千人（胎）に対し3.1で、前年より0.2ポイント低下し、全国（3.3）を0.2ポイント下回った。年次推移をみると、長期的に低下傾向にある。

（表－25、図－22）

なお、平成7年の上昇は、周産期死亡の定義が変わり、後期死産が「妊娠満28週以後」から「妊娠満22週以後」に改められたことに原因があるものと考えられる。

表－25 周産期死亡数及び周産期死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	28	29	30
周産期死亡数	埼玉県	1 892	1 956	1 889	1 546	899	555	401	476	397	281	252	208	185	178	160
	全国	66 552	54 094	41 917	30 513	18 385	11 470	7 001	8 412	6 881	5 149	4 515	3 729	3 518	3 309	2 999
周産期死亡率	埼玉県	43.6	29.4	20.7	16.1	12.0	8.3	6.3	7.0	6.0	4.7	4.2	3.7	3.4	3.3	3.1
	全国	41.4	30.1	21.7	16.0	11.7	8.0	5.7	7.0	5.8	4.8	4.2	3.7	3.6	3.5	3.3
後期死産数	埼玉県	1 287	1 306	1 213	1 014	603	380	275	385	319	242	205	175	145	154	133
	全国	49 512	39 955	29 107	20 268	12 231	7 733	4 664	6 580	5 362	4 058	3 637	3 064	2 841	2 683	2 385
後期死産率	埼玉県	29.6	19.6	13.3	10.6	8.0	5.6	4.3	5.7	4.8	4.0	3.4	3.1	2.7	2.9	2.6
	全国	30.8	21.9	15.0	10.7	7.8	5.4	3.8	5.5	4.5	3.8	3.4	3.0	2.9	2.8	2.6
早期新生児死亡数	埼玉県	605	650	676	532	296	175	126	91	78	39	47	33	40	24	27
	全国	17 040	14 949	12 810	10 245	6 154	3 737	2 337	1 832	1 519	1 091	878	665	677	626	614
早期新生児死亡率	埼玉県	13.9	9.8	7.4	5.5	3.9	2.6	2.0	1.3	1.2	0.7	0.8	0.6	0.7	0.5	0.5
	全国	10.6	8.2	6.6	5.4	3.9	2.6	1.9	1.5	1.3	1.0	0.8	0.7	0.7	0.7	0.7

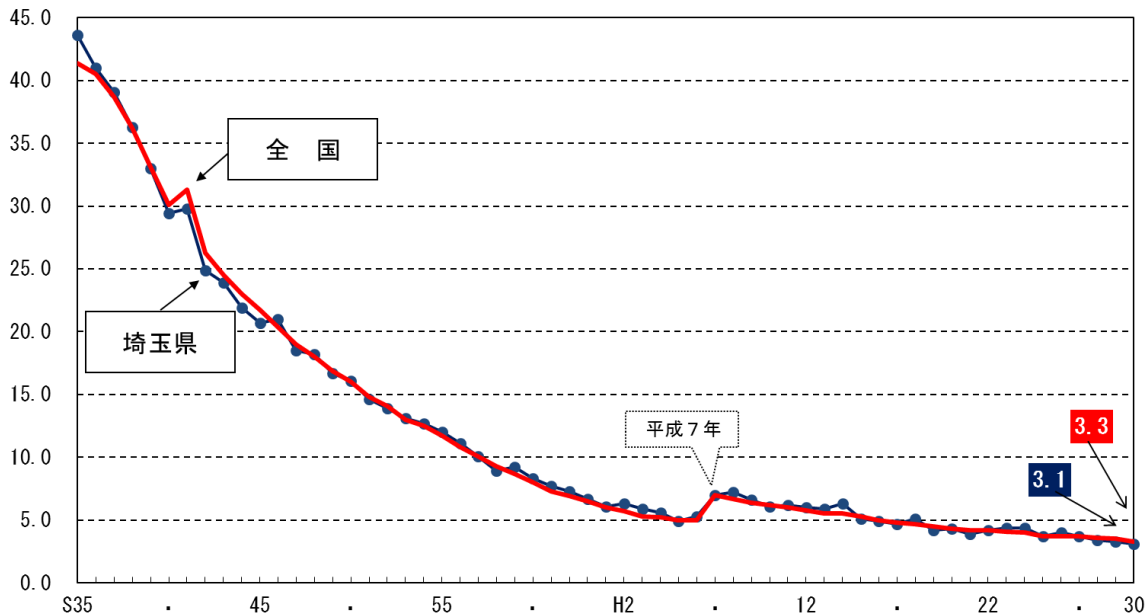
注1：周産期死亡率・後期死産率は出産（出生＋後期死産）千対である。

注2：早期新生児死亡率は出生千対である。

注3：後期死産とは、妊娠満22週以後の死産である。

図－22 周産期死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

周産期死亡率（出産千対）



(7) 婚姻

婚姻件数は32,745組で、前年より997組減少した。

婚姻率は人口千人に対し4.6で、前年より0.1ポイント低下した。全国は前年より0.2ポイント低下し、4.7であった。（表-26）

婚姻率の年次推移をみると、昭和46年の11.7をピークに低下し、昭和62年（5.7）に上昇に転じたものの、平成5年を境として、総じて低下傾向にある。（図-23）

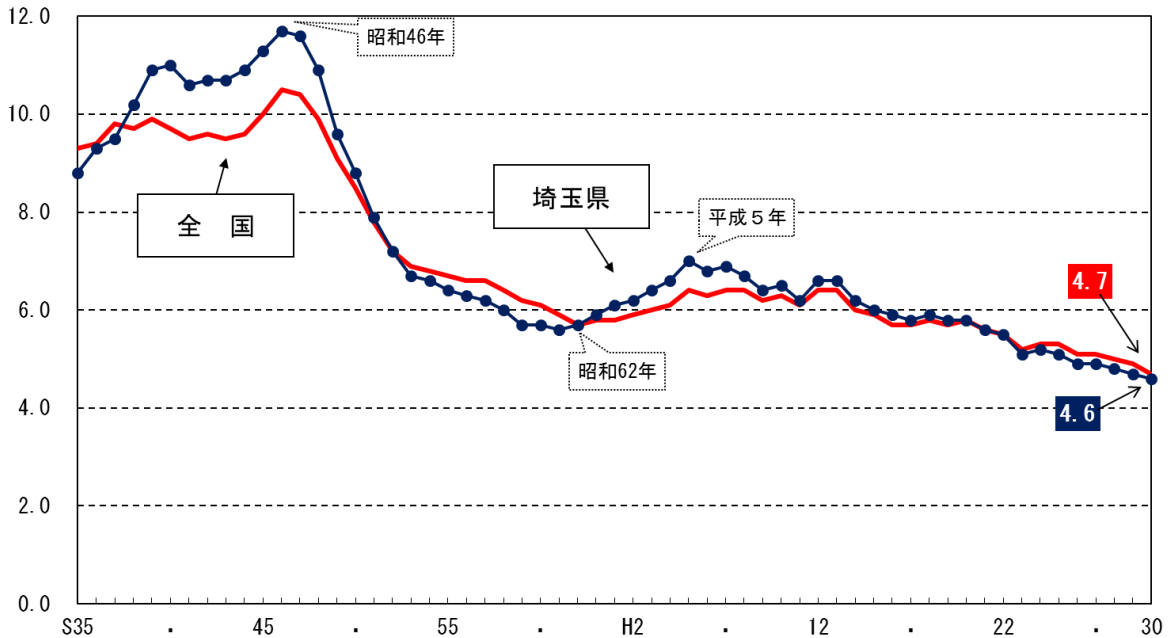
表-26 婚姻件数及び婚姻率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	21 485	33 131	43 517	42 340	34 708	33 446	39 234	46 224
	全国	866 115	954 852	1 029 405	941 628	744 702	735 850	722 138	791 888
率	埼玉県	8.8	11.0	11.3	8.8	6.4	5.7	6.2	6.9
	全国	9.3	9.7	10.0	8.5	6.7	6.1	5.9	6.4
		12	17	22	26	27	28	29	30
数	埼玉県	45 636	40 486	39 160	35 220	34 757	34 206	33 742	32 745
	全国	798 138	714 265	700 222	643 783	635 225	620 707	606 952	586 481
率	埼玉県	6.6	5.8	5.5	4.9	4.9	4.8	4.7	4.6
	全国	6.4	5.7	5.5	5.1	5.1	5.0	4.9	4.7

注：率は人口千対である。

図-23 婚姻率の年次推移（埼玉県・全国）

婚姻率（人口千対）



平均初婚年齢は、夫31.5歳、妻29.6歳で、夫は前年と同じで、妻は前年より0.1歳上昇した。全国は前年と変わらず、夫31.1歳、妻29.4歳であった。（表-27）

年次推移をみると、埼玉県、全国ともここ数年は、横ばいである。（図-24）

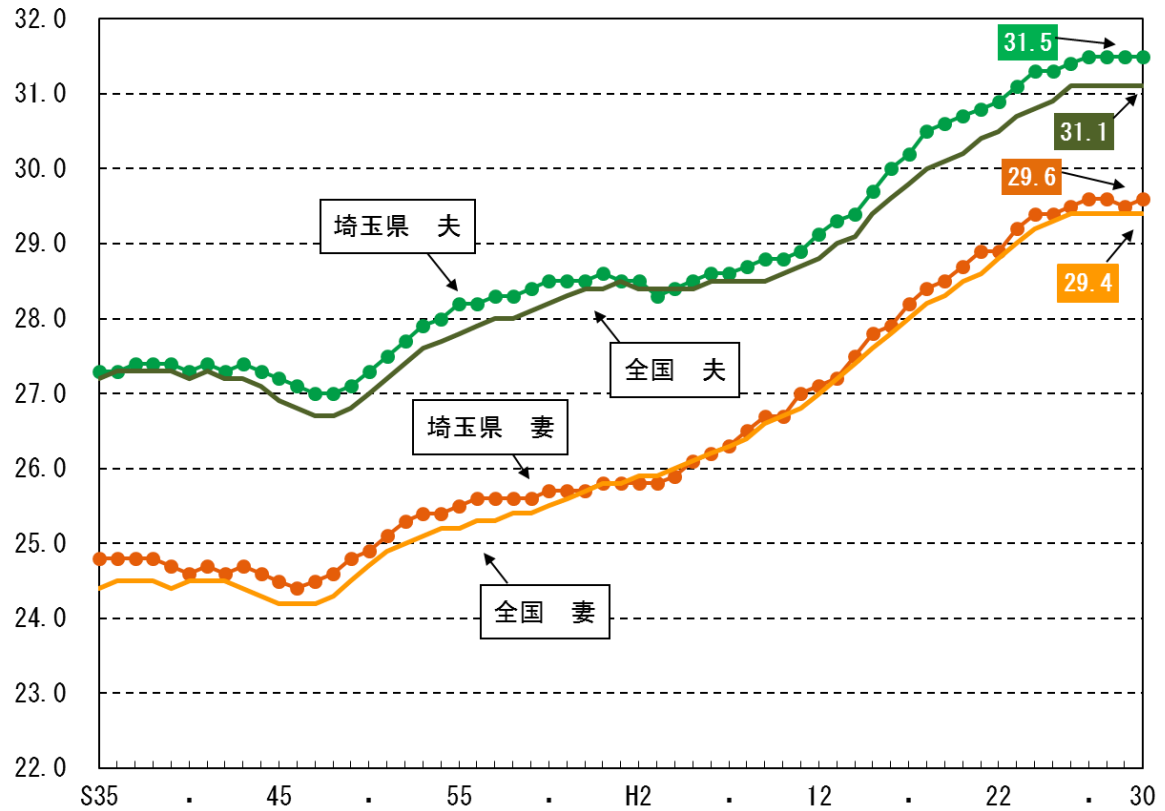
表-27 平均初婚年齢の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28	29	30
夫	埼玉県	27.3	27.3	27.2	27.3	28.2	28.5	28.5	28.6	29.1	30.2	30.9	31.4	31.5	31.5	31.5	31.5
	全国	27.2	27.2	26.9	27.0	27.8	28.2	28.4	28.5	28.8	29.8	30.5	31.1	31.1	31.1	31.1	31.1
妻	埼玉県	24.8	24.6	24.5	24.9	25.5	25.7	25.8	26.3	27.1	28.2	28.9	29.5	29.6	29.6	29.5	29.6
	全国	24.4	24.5	24.2	24.7	25.2	25.5	25.9	26.3	27.0	28.0	28.8	29.4	29.4	29.4	29.4	29.4

注：各届出年に結婚生活に入ったものにより算出している。

図-24 平均初婚年齢の年次推移（埼玉県・全国）

年齢（歳）



(8) 離婚

離婚件数は11,716組で、前年より446組減少した。

離婚率は人口千人に対し1.63で、前年より0.07ポイント低下した。全国も前年より0.02ポイント低下し1.68であった。（表－28）

離婚率の年次推移をみると、昭和58年以降一旦低下した。平成元年から上昇に転じ、その後は平成13年をピークに低下傾向にある。（図－25）

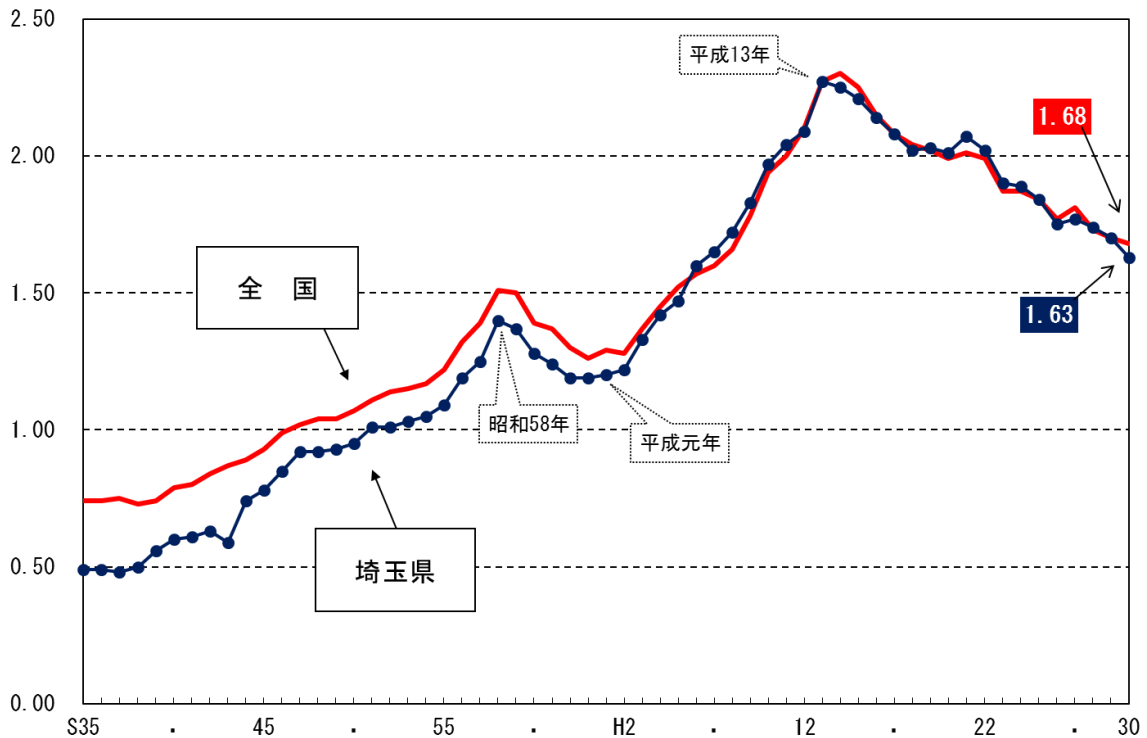
表－28 離婚件数及び離婚率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	1 182	1 797	2 990	4 584	5 901	7 494	7 775	11 062
	全国	69 410	77 195	95 937	119 135	141 689	166 640	157 608	199 016
率	埼玉県	0.49	0.60	0.77	0.95	1.09	1.28	1.22	1.65
	全国	0.74	0.79	0.93	1.07	1.22	1.39	1.28	1.60
		12	17	22	26	27	28	29	30
数	埼玉県	14 368	14 521	14 325	12 484	12 667	12 482	12 162	11 716
	全国	264 246	261 917	251 379	222 115	226 238	216 856	212 296	208 333
率	埼玉県	2.09	2.08	2.02	1.75	1.77	1.74	1.70	1.63
	全国	2.10	2.08	1.99	1.77	1.81	1.73	1.70	1.68

注：率は人口千対である。

図－25 離婚率の年次推移（埼玉県・全国）

離婚率（人口千対）



(9) 合計特殊出生率

合計特殊出生率は1.34で、前年より0.02ポイント低下した。全国は前年より0.01ポイント低下し1.42であった。

年齢階級別では30～34歳が最も高く、次いで25～29歳、35～39歳の順となっている。（表-29、図-26）

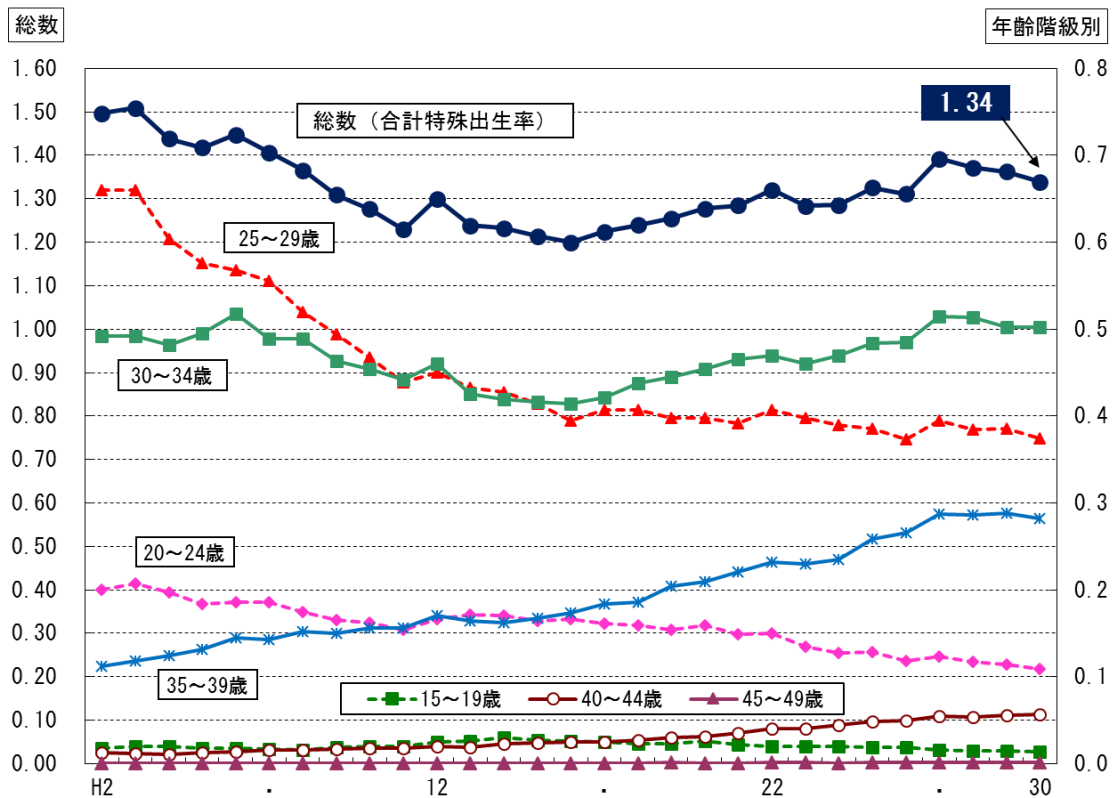
表-29 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）

		H2	7	12	17	22	26	27	28	29	30
埼玉県	総数 (合計特殊出生率)	1.50	1.41	1.30	1.22	1.32	1.31	1.39	1.37	1.36	1.34
	15～19歳	0.02	0.02	0.02	0.0255	0.0200	0.0190	0.0158	0.0150	0.0153	0.0137
	20～24歳	0.20	0.19	0.17	0.1617	0.1504	0.1186	0.1234	0.1173	0.1143	0.1085
	25～29歳	0.66	0.56	0.45	0.4071	0.4075	0.3729	0.3945	0.3843	0.3854	0.3739
	30～34歳	0.49	0.49	0.46	0.4216	0.4693	0.4848	0.5147	0.5140	0.5018	0.5018
	35～39歳	0.11	0.14	0.17	0.1835	0.2322	0.2659	0.2871	0.2861	0.2886	0.2823
	40～44歳	0.01	0.02	0.02	0.0246	0.0404	0.0491	0.0547	0.0536	0.0559	0.0567
	45～49歳	0.00	0.00	0.00	0.0007	0.0010	0.0013	0.0014	0.0014	0.0014	0.0016
全国	総数 (合計特殊出生率)	1.54	1.42	1.36	1.26	1.39	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42

注1：数値は、5歳階級別の出生率を合計したものである。ただし、埼玉県の平成27年分と全国の数値は、各歳の年齢別出生率を合計したものである。

注2：算出に用いた出生数の15歳及び49歳にはそれぞれ14歳以下、50歳以上を含んでいる。

図-26 合計特殊出生率の年次推移（年齢階級別内訳）（埼玉県）



市町村別にみると、高率順では、滑川町（1.68）、伊奈町（1.50）、美里町（1.46）の順である。
また、低率順では、鳩山町（0.65）、東秩父村（0.74）、毛呂山町（0.76）の順である。（表－30、図－27）

表－30 市町村別にみた合計特殊出生率（高率順）

埼玉県								
順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率	順位	市町村	合計特殊出生率
1	滑川町	1.68	22	草加市	1.27	43	上里町	1.10
2	伊奈町	1.50	23	富士見市	1.27	44	行田市	1.10
3	美里町	1.46	24	皆野町	1.26	45	久喜市	1.09
4	朝霞市	1.45	25	川越市	1.25	46	松伏町	1.05
5	八潮市	1.45	26	羽生市	1.25	47	北本市	1.04
6	吉川市	1.44	27	飯能市	1.22	48	杉戸町	1.04
7	志木市	1.41	28	熊谷市	1.22	49	川島町	1.03
8	横瀬町	1.39	29	三芳町	1.22	50	日高市	1.01
9	白岡市	1.39	30	上尾市	1.20	51	神川町	0.97
10	三郷市	1.39	31	蓮田市	1.19	52	嵐山町	0.97
11	本庄市	1.31	32	川口市	1.18	53	長瀨町	0.96
12	ふじみ野市	1.31	33	狭山市	1.18	54	越生町	0.95
13	越谷市	1.31	34	桶川市	1.18	55	蕨市	0.92
14	宮代町	1.30	35	坂戸市	1.17	56	吉見町	0.85
15	戸田市	1.30	36	所沢市	1.17	57	幸手市	0.83
16	新座市	1.29	37	春日部市	1.17	58	小鹿野町	0.78
17	秩父市	1.29	38	入間市	1.17	59	小川町	0.77
18	和光市	1.29	39	鶴ヶ島市	1.16	60	ときがわ町	0.77
19	さいたま市	1.29	40	加須市	1.14	61	毛呂山町	0.76
20	東松山市	1.28	41	寄居町	1.11	62	東秩父村	0.74
21	深谷市	1.28	42	鴻巣市	1.11	63	鳩山町	0.65

注1：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

図一27 合計特殊出生率—市町村別状況—

